

## . 平成19年度事業報告(案)

### 1. 会勢報告

{ 総務担当：齋藤 真 }

【総 数】

(単位：人)

会 員	平成19年4月1日	平成20年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減
		1,935	1,909	86	112

会員資格  
変更

正会員:	1,803	1,772	60	100	-40	+9
準会員:	132	137	26	12	+14	-9

【内 訳】

(単位：人)

支 部	平成19年4月1日	平成20年3月31日	新 入 会 員	退 会 者	増 減 ( ) : 支部間 の移動
北 海 道	41	47	4	0	+4(+2)
東 北	59	61	3	0	+3(-1)
関 東	1,093	1,074	40	59	-19( 0)
東 海	176	165	8	20	-12(+1)
関 西	330	332	22	19	+3(-1)
中国・四国	132	127	6	9	-3(-2)
九 州	88	85	2	5	-3( 0)
国 外	16	18	1	0	+1(+1)
賛 助 会 員	43社 44口	40社 41口	0社 0口	3社 3口	-3社 -3口

## 2. 事業報告

{ 総務担当: 齋藤 真 }

- (1) 社団法人日本人間工学会を実現するため、法人化担当を中心に主務官庁に対して、早期認可についての折衝を進めた。
- (2) 第 48 回大会を福田康明大会長のもと平成 19 年 6 月 2 日～3 日に、名城大学において開催した。
- (3) 評議員会および定期総会を平成 19 年 6 月 2 日に名城大学において開催し、平成 18 年度事業報告・収支決算および平成 19 年度事業計画・収支予算を審議の上、決定した。
- (4) 理事会を 5 月 16 日、6 月 1 日、9 月 29 日、11 月 17 日、1 月 29 日、3 月 10 日の計 6 回開催した。
- (5) 機関誌「人間工学」の第 43 巻 2～6 号および第 44 巻 1 号の計 6 冊を発行した。
- (6) 認定人間工学専門家に関する事業活動においては、IEA から国際資格の認証が認められ、IEA 認証取得記念講演会を実施した。資格認定では、認定試験(A 方式試験)を実施し合格者が 2 名、また筆記試験免除条項を適用した資格認定試験(B 方式試験)についても 2 回実施し 1 名が合格し、これら 3 名について登録手続きを経て認定工学専門家資格の登録認定を行った。平成 19 年度末現在の認定人間工学専門家は 155 名である。人間工学準専門家、人間工学アシスタントの 2 つの新資格制度の試験を実施し 23 名が合格し、準専門家として登録を行なった。
- (7) 常設委員会・担当である広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159 国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当と臨時委員会・担当である将来計画委員会、人間工学技術戦略委員会、支部・部会・大会担当、法人化担当において各事業を進めた。

広報に関する事業活動においては、学会内の委員会、支部、研究部会と協力し、ホームページを中心に広報活動を推進した。学会長のページや第 49 回大会案内など新たなページを作成した。人間工学グッドプラクティスのデータベース化や人間工学の啓発を目的としたリーフレットの作製を企画した(広報委員会)。

編集に関する事業活動においては、学会誌の定期発行業務を遂行するとともに、奇数月に通常編集委員会、偶数月に電子編集委員会を開催し、査読業務の効率化・迅速化を進め、投稿原稿の査読期間の短縮化を図った。さらに経費削減のため印刷会社を変更した(編集委員会)。

国際協力に関する事業活動においては、IEA(国際人間工学連合)理事会(米国・ボストン)に参加したのをはじめ、ESK(大韓人間工学会)・JES 合同シンポジウム 2007(韓国・水原)への対応など、様々な国際活動に対応した(国際協力委員会)。

ISO/TC159 国内対策に関する事業活動においては、規格原案審議のための国内委員会および国際会議に出席し、37 件の ISO 規格原案の投票を行い、10 件の ISO 規格の発行に寄与した(ISO/TC159 国内対策委員会)。

表彰に関する事業活動においては、選考基準に基づき平成 19 年度大島正光賞および研究奨励賞の受賞論文を選考した。また若手研究者の育成支援に資する日本人間工学会優秀研究発表奨励賞を創設した。さらに永年に亘り当学会活動に寄与された会員に対する名誉会員の推薦制度を整備した(表彰委員会)。

日本学術会議に関する事業活動においては、日本学術会議から発信される情報を本学会のホームページに掲載するなど連携強化に努めた。また日本学術会議主催の安全工学シンポジウム 2007、2008 に関する運営、準備に参加した(日本学術会議担当)。

将来計画に関する事業活動においては、学会活動や運営上の問題点を整理し、将来に向けて学会の活性化ならびに社会貢献に應えるための方策を検討して提案した(将来計画委員会)。

人間工学技術戦略の検討に関する事業活動においては、人間工学技術戦略ロードマップをローリングするとともに、活用方法についても検討した(人間工学技術戦略委員会)。

支部・部会・大会担当に関する事業活動においては、委員会を 3 回開催して支部・部会・大会での課題や改善案及び具体的な対応策を検討して理事会に答申した(支部・部会・大会担当)。

法人化担当に関する事業活動においては、定款案の見直し、諸規則の再検討、主務官庁や他学会との継続的な接触・情報収集を行った(法人化担当)。

- (8) 第 17 期(平成 19 年～21 年)役員選挙により選出された評議員、理事・監査、会長・副会長が総会で承認され、第 17 期役員体制が決定した(第 17 期役員選挙管理委員会)。

- (9) 支部活動、研究部会活動の活性化を進めた。7 支部と航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、海上人間工学研究部会、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会、触覚インタラクション研究部会の計 12 研究部会が活動を行った。
- (10) 認定人間工学専門家に関する事業活動においては、資格認定試験を実施するとともに(合格者 3 名)、資格保有者の再認定制度を制定した。若い年代層を対象とした人間工学準専門家、人間工学アシスタントの 2 つの新資格制度の試験を実施した(合格者 23 名)、また認定人間工学専門家資格が IEA の国際資格認証を取得したことに伴い、IEA 認証取得記念講演会を実施した(認定人間工学専門家部会)。
- (11) 大韓人間工学会との協力協定に基づいて、ESK/JES 合同シンポジウムを韓国・水原において大韓人間工学会 2007 年春季大会と同時に開催した。
- (12) 賛助会員を対象とした講演会(兼、一般に向けた人間工学啓発のための講演会)を平成 20 年 1 月 29 日に東京において開催し、「人間工学における国際標準化活動」を主題に、横山真太郎氏、佐川賢氏の講演を行った。
- (13) 平成 19 年研究奨励賞の受賞論文を決定し、各受賞者に同賞を授与した。
- (14) 人間工学に対する社会的ニーズに的確かつ迅速に応えるために、横幹連合への参加、経済産業省との連携によるロボット分野のアカデミックロードマップへの参加など、他学協会等との共同事業を広く展開した。
- (15) 関連学術団体等との連絡および協力として、44 件の共催・協賛・記事掲載を行った。
- (16) 事務局業務の合理化のため会員管理を外部委託し、Web 会員管理システムの開発を行った。

### 3. 担当・委員会活動

#### [常設委員会・担当]

#### 3-1. 広報委員会

{委員長:酒井 一博}

- (1) 委員会、支部、研究部会等と協力し、ホームページを介して広報活動を推進した。2007 年 4 月から 2008 年 3 月までのホームページの総アクセス数は 61395 件であり、ひと月平均約 5000 件のアクセスがあった。学会内および関連学協会からのイベント案内、人材募集、各種事業の案内などを積極的に情報提供した。
- 1) 主な更新・新規掲載状況
- ・人間工学グッドプラクティスデータベース公募の開始案内を掲載(2008 年 2 月 19 日)
  - ・日本人間工学会 第 49 回大会案内を随時掲載
  - ・2007 年より IEA の President's Letter (No.7 ~ .20) を掲載開始
  - ・日本人間工学会のリーフレット(PDF:247KB)を掲載(2008 年 2 月 11 日)
  - ・厚生労働科学研究補助金の公募案内のお知らせを掲載(2007 年 10 月 31 日)
  - ・横幹連合ニュースレターおよび、第 2 回横幹連合コンファレンスの開催と一般講演募集の案内を掲載(2007 年 10 月 31 日、8 月 16 日)
  - ・日本学術振興会平成 20 年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の公募に関する説明会資料発表のお知らせを掲載(2007 年 10 月 18 日)
  - ・日本人間工学会の歴代大会の一覧を掲載(2007 年 10 月 15 日)
  - ・認定人間工学専門家部会主催の IEA 認証取得記念講演会・臨時総会の案内を掲載(2007 年 9 月 30 日)
  - ・文部科学省 平成 20 年度科学研究費補助金の公募案内を掲載(2007 年 9 月 5 日)
  - ・日本学術振興会 平成 20 年度科学研究費補助金公募の案内を掲載(2007 年 9 月 5 日)
  - ・「ロボット分野アカデミックマップおよびロボット技術戦略マップ 2007」報告会開催のお知らせを掲載(2007 年 8 月 15 日)
  - ・アーゴデザイン部会主催のコンセプト・事例発表会のお知らせを掲載(2007 年 8 月 3 日)
  - ・第 17 期の学会活動の主要担当者を掲載(2007 年 7 月 28 日)

- ・第15回看護人間工学会総会・研究発表会の情報を掲載(2007年7月12日)
- ・「人間生活技術戦略2007」が経済産業省より発表されたお知らせを掲載(2007年7月11日)
- ・2007年6月2日に改正された会則を掲載(2007年6月30日)
- ・学会長のページをオープンし、「会長就任のご挨拶」を掲載(2007年6月24日)
- ・認定人間工学専門家の資格が国際資格になったお知らせを掲載(2007年6月08日)
- ・トップページの委員会、担当、支部、研究部会のメニュー構成を平成19年度事業計画に基づいて更新(2007年6月5日)

(2)人間工学グッドプラクティスのデータベース化を企画し、その事例について応募を開始した。

また、ホームページ上にグッドプラクティスDBのページを開設した。

(3)学会誌「人間工学」の電子化を提案した。その運営は編集委員会に引き継いだ。

(4)学生や初学者を対象に、人間工学をわかりやすく紹介・解説するためのコーナーをホームページ上に掲載することを企画し、構想について検討を行った。

(5)人間工学の啓発を目的に、リーフレットの作成を企画し、その骨子作りまで完了した。

(6)ホームページのリニューアルに向けた活動を開始した。

### 3-2. 編集委員会

{委員長：加藤 象二郎}

(1)学会誌「人間工学」の編集・発行状況

- ・平成19年 4月：第43巻2号(58ページ)原著5編、技術報告1編、紹介コーナー2編 他
- ・平成19年 6月：第43巻3号(58ページ)原著6編、紹介コーナー1編 他
- ・平成19年 8月：第43巻4号(76ページ)原著7編、短報1編 他
- ・平成19年 10月：第43巻5号(46ページ)原著3編、短報1編、資料1編 他
- ・平成19年 12月：第43巻6号(71ページ)原著7編 他
- ・平成20年 2月：第44巻1号(58ページ)原著4編、短報1編 他

(2)編集委員会の開催

奇数月に編集委員会を開催し、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催した。

(3)投稿数および査読者数

投稿された原稿数とそれに対する査読依頼者数は以下のとおりであった。平成19年度の投稿総数は39編、査読者数は106名であった。

- ・平成19年7月(第1回委員会)  
投稿数10編(原著9編、資料1編)：査読依頼者数29名
- ・平成19年9月(第2回委員会)  
投稿数9編(原著8編、資料1編)：査読依頼者数26名
- ・平成19年11月(第3回委員会)  
投稿数4編(原著2編、短報1編、資料1編)：査読依頼者数9名
- ・平成20年1月(第4回委員会)  
投稿数6編(原著5編、短報1編)：査読依頼者数16名
- ・平成20年3月(第5回委員会)  
投稿数10編(原著8編、短報2編)：査読依頼者数26名

(4)紹介コーナーの継続と特集号の創設

第41巻4号より学会誌に「紹介コーナー」を設け、私の研究紀行、学会等への参加記録、活動記録、書評などを紹介している。

・特集号について

学会誌に新たに「特集号」を創設し、毎巻5号を特集号とすることとした。第1回の特集号は44巻5号とし、「癒しの人間工学」を特集号テーマとし、投稿論文の公募告知を44巻1号とホームページに掲載した。

・研究部会総説について

原則として学会誌の偶数号(第44巻3号よりスタートし、以下4,6号)に、既設研究部会による会員への活動報告の観点から当該領域の「総説」を設けることとし、現在編集委員会で決めている順番で執筆依頼を行っている。

(5) 投稿用紙について

投稿用紙はホームページ内の編集委員会ページよりダウンロードできる各種電子版書式を掲載した。

(6) 編集委員会のホームページ更新

第17期編集委員会のホームページを開設した。また、発行済みの学会誌第44巻1号までの目次を検索できるようにホームページ内の情報を更新した。

(7) 学会誌の印刷会社の見直し

印刷会社の見直しを行った結果、見積り、サービス、実績(他学会誌発行経験)等から2月27日付けで日本印刷㈱と学会誌印刷業務を新規契約し、44巻3号より発行することとなった。これにより、印刷費が1号(64頁相当)あたり約85万円から約57万円となり、印刷費が約28万円軽減される。

(8) 査読期間の短縮

迅速な査読を心掛けるため、平成16年10月(第16期編集委員会)から続けている副査の査読期間短縮(従来1ヶ月であったものを2週間に短縮)を継続した。

(9) 掲載までの最短日数

投稿原稿の受付から掲載可となった期間は最短で4ヶ月、その平均は6~7ヶ月(前年度は6~7ヶ月)であった。

(10) 投稿原稿の採択率

第17期編集委員会(約1年間分)で受付けた投稿原稿39編中採否の結果がでた投稿原稿19編のうち、採択されたのは8編(採択率約42%)であった。なお、筆頭著者が学会員の投稿原稿15編のうち採択されたのは5編(採択率33%)で、筆頭者が非学会員の投稿原稿4編のうち採択されたのは3編(採択率約75%)であった。

(11) 大島賞・研究奨励賞について

・平成20年大島正光賞・研究奨励賞について選考結果を表彰委員会に報告した。

### 3-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典}

(1) IEA 理事会:平成19年8月24日~8月26日 ポストン(米国)

学会から council member として堀江委員長・小谷委員、ならびに alternate member の土屋委員が出席。各国の年次活動報告として日本からは資格制度の現状、JES ロードマップの進捗状況などを中心に報告した。

(2) 委員会開催

担当理事による会合を4回開催。その他 E-mail による緊密な連絡を実施

(3) 理事会審議・報告

ESK/JES Joint Symposium 2007 への対応、IEA 会費など

(4) 国際交流

・日韓ジョイント・シンポジウム

韓国・水原において、5月25日・26日に大韓人間工学会2007年春季大会と同時開催、2件の特別講演と17件の一般発表が行われた。

(5) 国際活動関連記事

第43巻2号 IEA 2006 聴覚人間工学シンポジウム参加報告(高尾秀伸)

第43巻2号 国際ユニヴァ - サルデザイン会議2006年 in 京都の報告(細野直恒)

第43巻3号 第10回 JES/ESK ジョイント・シンポジウム - 韓国・水原 - 参加報告(朴美卿)

第43巻5号 2007年 IEA 理事会参加報告(小谷賢太郎)

第43巻6号 日本人間工学会と大韓人間工学会との学术交流10年(齊藤進、堀江良典)

第43巻6号 Looking back on the Korea & Japan Ergonomics Symposium has followed for ten years (Sang Do Lee)

### 3-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志}

#### (1)委員会開催、国際会議出席状況

- 1)国内委員会:全体会議4回、分科会38回
- 2)国際会議出席状況:30回の国際会議に延べ100名出席

#### (2)発行規格、投票

##### 1)新ISO規格:10件

- ・ISO/PAS 20282-4:2007 Ease of operation of everyday products -- Part 4: Test method for the installation of consumer products
- ・ISO/PAS 20282-3:2007 Ease of operation of everyday products -- Part 3: Test method for consumer products
- ・ISO 15536-2:2007 Ergonomics -- Computer manikins and body templates -- Part 2: Verification of functions and validation of dimensions for computer manikin systems
- ・ISO 11228-3:2007 Ergonomics -- Manual handling -- Part 3: Handling of low loads at high frequency
- ・ISO 11228-2:2007 Ergonomics -- Manual handling -- Part 2: Pushing and pulling
- ・ISO 9241-400:2007 Ergonomics of human--system interaction -- Part 400: Principles and requirements for physical input devices
- ・ISO 11079:2007 Ergonomics of the thermal environment -- Determination and interpretation of cold stress when using required clothing insulation (IREQ) and local cooling effects
- ・ISO 9920:2007 Ergonomics of the thermal environment -- Estimation of thermal insulation and water vapour resistance of a clothing ensemble
- ・ISO 14505-2:2006/Cor 1:2007 Ergonomics of the thermal environment -- Evaluation of thermal environments in vehicles -- Part 2: Determination of equivalent temperature(correction)
- ・ISO/TS 14505-1:2007 Ergonomics of the thermal environment -- Evaluation of thermal environments in vehicles -- Part 1: Principles and methods for assessment of thermal stress

##### 2)投票:FDIS 11件、DIS 3件、CD 1件、見直し18件、NWIP4件

#### (3)分科会活動

- |                                    |          |          |
|------------------------------------|----------|----------|
| 1)SC1(指導原理)                        | 主査:青木和夫  |          |
| ・WG1+2(作業システム)                     | 主査:柳堀朗子  | 分科会1回開催  |
| ・WG4(日用品のユーザビリティ)                  | 主査:加藤象二郎 | 分科会1回開催  |
| 2)SC3(人体寸法と生体力学)                   | 主査:横井孝志  | 分科会2回開催  |
| ・SG1(人体測定)                         | 主査:横井孝志  |          |
| ・SG2(姿勢・筋力)                        | 主査:石川文武  |          |
| 3)SC4(人間とシステムのインタラクション)            | 主査:中野義彦  | 分科会1回開催  |
| ・WG1+2+3(ハードウェア・環境)                | 主査:中野義彦  | 分科会11回開催 |
| ・WG5+WG9+9241-20(ソフトウェア)           | 主査:山本栄   | 分科会12回開催 |
| ・W6(インタラクティブシステムの人間中心設計)           | 主査:黒須正明  |          |
| ・WG8(コントロールセンター)                   | 主査:藤田祐志  |          |
| 4)SC5(物理的環境)                       | 主査:栃原 裕  |          |
| ・WG1+4(温熱環境)                       | 主査:栃原 裕  | 分科会4回開催  |
| 5)TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学) | 主査:佐川賢   | 分科会1回開催  |
| 6)JIS分科会                           | 主査:中野義彦  | 分科会5回開催  |

### 3-5. 表彰委員会

{委員長:阿久津 正大}

#### (1)委員会開催状況

全体委員会を9月15日、1月21日、3月4日に開催したほか、電子メール委員会を11月に開催し、また随時電子メールでも討議を進め、下記について活動を行った。

#### (2)活動内容

##### 1)大島正光賞について

・平成20年大島正光賞について、受賞候補者の選考を編集委員会に依頼し選考結果を理事会に上申した。

##### 2)日本人間工学会研究奨励賞について

・平成19年度総会において、平成19年研究奨励賞の受賞者である中澤宣明氏、吉原由佳氏、藤ノ木あゆみ氏、松井利一氏、山田功氏、伊藤 薫氏及び齋藤誠二氏、村木里志氏に対する授与式を行った。

・平成20年研究奨励賞について、受賞候補者の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申した。

3)表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集した。

4)名誉会員推薦に係わる広報、名誉会員候補者推薦手続きについて検討・具体案を理事会に上申し、名誉会員の推薦を行えるようにするとともに、名誉会員推薦業務を総務に移管した。

5)若手研究者育成支援を目的とした「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」について検討し、その具体案を理事会に上申し同賞の実現を図った。また第49回大会における同賞受賞者の選出に向けて準備を進めた。

6)人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設について検討を進めた。この事業については今後、ほぼ同じ対象について広報の立場から検討している広報委員会と連携して進めていく。

7)国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応した。

8)表彰委員会 HP の開設準備を進めた。

##### 9)その他

・表彰制度のあり方、各賞の選考規程等、表彰制度の整備、日本人間工学会功労賞の受賞候補者の選考、表彰準備については予定どおり進めることができず、20年度に持越すことになった。

### 3-6. 日本学術会議担当

{担当:齊藤 進、青木 和夫}

#### (1)日本学術会議の連携の拡充

1)「人間工学啓発のための講演会」(2008年1月29日開催)について学術会議の後援を取得した。

2)学術会議から発信される情報は適宜日本人間工学会のHPに掲載し、関連強化に努めた。

#### (2)日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2007への協力

安全工学シンポジウム2007(幹事学会:建築学会、2007年7月5日、6日)を共催し、実行委員として運営に参加した。また、オーガナイズドセッション2件を本学会から提案して実施した。

#### (3)日本学術会議主催の安全工学シンポジウム2008への協力

安全工学シンポジウム2008(幹事学会:土木学会、2008年7月10日、11日)の共催学会として実行委員会に参加し準備に協力した。

### [臨時委員会・担当]

### 3-7. 将来計画委員会

{委員長:青木 和夫}

学会の活性化と社会的貢献のために、学会活動や運営上の問題点を整理し、将来に向けての活性化の方策ならびに社会的ニーズに応えるための方策を検討して提案した。

#### (1)委員会組織

委員長 青木和夫(日本大学)

副委員長 吉武良治(日本アイ・ピー・エム株式会社)  
委員 武藤敬子(東京電力株式会社)  
委員 福住伸一(NEC 共通基盤ソフトウェア研究所)  
委員 渡邊政嘉(経済産業省)

(2)委員会の開催

第1回 平成19年8月1日(水)13:00~15:00 日本大学理工学部  
第2回 平成19年9月27日(木)15:00~17:00 日本大学理工学部  
第3回 平成19年10月15日(月)~30日(火) メール会議  
第4回 平成20年4月 メール会議

(3)審議の経過

第1回委員会で各委員より学会の現状と問題点について意見を提出してもらい、意見を交換した。次にこれらの問題点をふまえた上で、各委員より学会活性化の提言を提出してもらった。これらの提言案について第2回委員会で逐一検討を行った。この議論を踏まえて委員長が提言案をとりまとめ、メールによる第3回委員会にて委員の意見を交換した。最終的な報告書案は委員長が作成し、メールによる第4回委員会にて承認された。

(4)学会への提言と今後の課題

委員会による検討の結果、目的、行動目標、具体的行動を提言としてとりまとめた。また、今後の課題として、実行の優先順位の決定、実績の評価の方法などの検討が挙げられた。

### 3-8. 人間工学技術戦略委員会

{委員長:藤田 祐志}

(1)下記のとおり委員会を実施した。

これらの他に、横幹連合、日本ロボット学会、経済産業省による関連技術戦略ロードマップ作成に協力した。

- ・2007年6月28日 : 第1回委員会
- ・2007年11月7日 : 作業会
- ・2007年12月21日 : 第2回委員会(作業会と合同)

(2)成果

- ・2006年に策定したドラフト版技術戦略ロードマップ(5領域について19のマップ)のうち15の技術戦略ロードマップについてローリングを行い、公開版を作成した。
- ・技術戦略ロードマップの活用方法について検討した。その結果、技術戦略ロードマップと連動した学会活動を行うこと、技術戦略ロードマップを根拠に外部から研究資源を得ること、技術戦略ロードマップを出版することについて、学会がリーダーシップを発揮することが望まれるとの結論を得た。

### 3-9. 支部・部会・大会担当

{担当:福田 康明、斎藤 真}

支部・部会・大会委員会では、委員会(3回)を開催して支部・部会・大会での課題や改善案及び具体的な対応策を検討して理事会に答申した。

以下、主な検討課題について要約する。

(1)支部について

現在、7支部(北海道、東北、関東、東海、関西、中国・四国、九州)が設立され、独自に支部規定を定め、支部の運営を行なっている。しかし、会員数(平成19年9月)を見ると、最大は関東支部の1,093名で約半数を占め、最少は北海道支部で41名であり、約26.7倍の差が見られる。今後は地方会員の増強を積極的に推進する必要がある。また支部の区割りでは偏りが見られ、特に関西支部では、北信越地区における会員サービスのあり方が課題となっている。更に、支部の運営内容や方針は総会資料に報告されているが、より詳細な情報公開が要望される。そのためにも、学会誌に支部報告(活動)を掲載し、会員に情報提供することも必要である。

(2)研究部会の運営について



現在、12 研究部会が一律 10 万円の補助金を受けながら、年度ごとに目標を立てて計画的に活動している。しかし、研究部会補助金が一律でありながら、部会員の人数や活動内容に極端な違いがあったり、非会員が大多数を占めるなど、部会活動のあり方そのものに問題が顕在化している。今後、研究部会の活性化を図り、本学会全体を盛り上げるためには思い切った改善が必要である。

### (3)大会の運営について

大会運営は開催校(または支部)が独自に企画から実施まで行うため、大会運営方法にばらつきが生じる。また以前のノウハウが生かされていないなど問題が多い。したがって大会運営は開催校の負担が大きく、同時開催する日韓シンポジウムの運営に支障を来していることもある。今後は大会運営の根幹部分を理事、委員会で支援して開催校の負担を軽減するとともに、運営の細部は開催校に任せ特色を生かした運営となるようにする。

## 3-10.法人化担当

{担当:大久保 堯夫}

平成 18 年 6 月に公益法人制度の抜本的な制度改革である「公益法人制度改革関係 3 法」が公布され、平成 20 年 12 月 1 日に施行されることとなっている。

この間は、旧法体制から新法に移行する経過期間に当たり、旧法体系化における認可法人制度の運用がなされている。当担当では、新制度の施行が差し迫る中、年初からこれまでの社団法人化推進を文部科学省に積極的に働きかけてきたが、年度中途に於いて同省から現行制度における社団法人の認可は困難との見通しが伝えられた。

このため当法人化担当としては、準則制度による新公益法人制度に取り組むこととし、新法施行に伴う諸要件の整備の動向を見定めながら、下記の準備活動を行なった。

- (1)新公益法人法制の下での諸法令に準拠した定款案への見直し
- (2)学会諸活動に関連する諸規則の再検討
- (3)文部科学省担当官との継続的な接触・情報収集、関連他学会の動向に関する情報収集

なお、認可公益法人制度下における社団法人化推進のために、多大なご協力例えば基本財産の確保のため多額の寄付金を賜った、今は亡き諸先輩学会員・既に退会されている学会員、現学会員の皆様に、心からなる謝辞を申し上げますとともに、今後の新法人制度において強力な財務基盤となっていることを申し上げます。

## 4.支部活動

### 4-1.北海道支部

{支部長:横山 真太郎}

#### (1)会議

- 1)支部役員会 平成19年 7月20日 北海道大学工学部
  - ・平成18年度支部事業報告
  - ・平成18年度決算報告並びに監査報告
  - ・平成19年度予算案
  - ・平成19年度支部事業計画案
  - ・平成20年度支部大会および総会について

#### (2)平成19年度支部大会および総会

##### 1)支部大会

日 時:平成19年11月10日

会 場:札幌市立大学サテライトキャンパス

大会長:酒井正幸(札幌市立大学デザイン学部教授)

- ・支部長挨拶(北大 横山教授)
- ・セッション A「医療分野の人間工学」  
座長:平沢尚毅(小樽商科大学)

発表 A1「従来の標準車いす背もたれと張り調整式背もたれの形状の評価 頭頸部の安定した座りを得るために必要な車いす背もたれの形状とは？」西村重男(北海道立心身障害者総合相談所)

発表 A2「ホームヘルスケア機器による健康管理システムのゼロクリック化の効果および家庭内測定健康データのフル利活用」明石浩史(札幌医科大学)

発表 A3「点滴スタンドのユーザビリティ評価(第3報) 使用時の騒音に関する考察」三谷篤(札幌市立大学)

・セッション B「IT 分野の人間工学」

座長：山本敏雄(公立はこだて大学)

発表 B1「高齢者ユーザーによる家電機器操作用語の理解度評価 操作用語の多面的属性分析に基づくわかりやすさの評価」多賀昌江(札幌市立大学)

発表 B2「有限要素法による手指力計測のための深層筋活動シミュレーション」中島康博(北海道立工業試験所)

発表 B3「UI 仕様検討における利用品質作り込みプロセスの考察」尾形慎哉(小樽商科大学)

特別講演「人間工学と感性」札幌市立大学 原田学長

2) 支部総会議題

- ・平成18年度支部事業報告
- ・平成18年度決算報告並びに監査報告
- ・平成19年度予算
- ・平成19年度支部事業計画
- ・平成20年度支部大会および総会について

## 4-2. 東北支部

{ 支部長:北村 正晴 }

(1) 支部主催 研究交流会

平成 19 年度研究交流会

日時：平成 19 年 5 月 12 日(土) 午後 2 時から 5 時まで

場所：八戸大学総合研究所市内オフィス(市商工会館 6F)

司会進行：畑山俊輝(八戸大学)

第一セッション：14:00～15:00

1) クルーズコントロールはドライバーの何に役に立つのか 畑山俊輝(八戸大学人間健康学部)

2) 八戸におけるバリアフリー推進の事例的研究 久宗周二(高崎経済大学経済学部)

第二セッション：15:30～16:30

3) 青森県田子町における心の健康づくり 滝澤 透(八戸大学人間健康学部)

4) 生活リズムによる高齢者の安否確認 久慈憲夫(八戸工業高等専門学校電気情報工学科)

(2) 支部主催 講演会

日時：2008 年 3 月 15 日(土)13:30-17:00

場所：東北大学工学研究科総合研究棟 8 階 817 号室

1) 主催者あいさつ

2) 講演 1：医療安全問題の人間・機械・環境システム論 講師：自治医大 河野龍太郎先生

3) 講演 2：交通事故と心理 講師：東北学院大学 吉田信彌先生

4) 総合討論

(3) 支部役員会

1) 日 時 平成 19 年 12 月 11 日(木) 12:10～13:30

2) 場 所 東北大学未来科学技術共同研究センター

3) 参加者 幹事役員 4 名

4) 議 題 支部研究会の企画について

支部行事の開催方式について  
関連学協会との連携方策、その他

(4)その他

支部ホームページを開設しメーリングリストと併用して、情報の提供と支部活動の活性化に努めた。  
支部主催講演会の内容を編集・冊子化し、支部資料として保存するとともに希望者に配布した。

4-3. 関東支部

{ 支部長: 堀江 良典 }

(1)第 37 回関東支部大会

開催日:平成 19 年 11 月 23 日(金)~24 日(土)

会 場: 千葉大学西千葉キャンパス

大会長: 勝浦哲夫(千葉大学教授)

特別講演:1 件 シンポジウム:1 件5 題 企画セッション:1 件7 題 一般演題:54 題

(2)支部委員会

開催日:平成 19 年 11 月 23 日(金) 会場:千葉大学西千葉キャンパス

(3)支部総会

開催日:平成 19 年 11 月 23 日(金) 会場:千葉大学西千葉キャンパス

(4)卒業研究発表会

開催日:平成 19 年 11 月 23 日(金) 会場:千葉大学西千葉キャンパス 演題数:36 題

(5)見学会

開催日:平成 20 年 3 月 12 日(水) 会場:日産自動車(株)追浜工場 参加者:20 名

(6)ニューズレターの発行:見学会案内(2 月)

4-4. 東海支部

{ 支部長: 横森 求 }

(1)平成 19 年度日本人間工学会東海支部総会の開催

・開催日時:平成 20 年 3 月 22 日(土)15:45~16:15

・場 所:名城大学共通講義棟北 2 階 237 室

・懇親会:18:00~20:00 名城大学校友会館「レストラン・ベル」

(2)講演会の開催

・開催日時:平成 20 年 3 月 22 日(土)16:30~17:30

・場 所:名城大学共通講義棟北 2 階 237 室

・講 演:名城大学教授 中野倫明 氏

・演 題:加齢と運転能力 - 高齢者の運転能力の診断と向上を目指して -

(3)平成 19 年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催

・開催日時:平成 19 年 10 月 20 日(土)10:00~20:00

・開催場所:名古屋市立大学

・大会長:名古屋市立大学 榎原 毅

・発表演題数:特別講演 1 件、一般演題:32 件

・参加者:96 名

・懇親会参加者:43 名

(4)東海支部役員交代の件

・支部役員の加藤像二郎氏(愛知みずほ大学)の辞任に伴い幹事の大西範和氏(愛知みずほ大学)を、また研究大会運営担当として上西園武良氏(アイシン精機(株))を追加した。幹事に澤田慎治(名城大学)を追加した。

(5)役員会開催(5 回開催)

#### 4-5. 関西支部

{ 支部長: 岡田 明 }

##### (1) 企画・行事等

###### 1) 見学会 (株)イトーキ 大阪ショールーム

開催日: 平成19年10月24日(水)

見学 実験オフィスおよび展示フロア(解説付)

ミニ講演 人間工学に基づく製品開発事例 (講師: 櫻井多弥男・八木佳子((株)イトーキ))

参加者 32 名

###### 2) 支部大会

開催日: 平成19年12月1日(土)

会場: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

大会長: 市橋秀友(大阪府立大学教授)

特別講演「メランコリーと癒し」(角田茂 大阪府立大学教授)、

企画セッション「ユビキタス・ユニバーサルデザインの展望」(アーゴデザイン部会・情報社会人間工学研究部会合同シンポジウム)、

一般セッション17 計53演題、懇親会

参加者 171名

###### 3) 春季講演会

開催日: 平成20年3月29日(土)

会場: 常翔学園 大阪センター

「ものづくり企業の間接工学に基づく製品開発事例」コーディネータ: 山岡俊樹(和歌山大学)

人間工学を製品設計に活用する

山岡俊樹(和歌山大学)

「衣」の事例

岸本泰蔵((株)ワコール)

「住」の事例

田中眞二(積水ハウス(株))

「生活機器」の事例

高長光男(松下電器産業(株))

使える人間データベースの構築と提供 事例デモ

久本誠一((独)製品評価技術基盤機構)

懇親会

参加者 65 名

###### 4) 協賛

国際会議『21世紀の共生型原子力システムに関する国際会議(ISSNP)』(2007.7.9-11)

シンビオ社会研究会、日本原子力学会ヒューマンマシシステム部会、JSPS 日韓拠点大学交流事業(エネルギー科学技術)

「応用物理学会関西支部60周年記念講演会・見学会」(2007.9.25)応用物理学会関西支部

「平成19年度応用物理学会関西支部主催シンポジウム『先進的なセンシング技術』」(2007.11.14)

応用物理学会関西支部

「第41回光学五学会関西支部連合講演会」(2008.1.26)光学五学会関西支部

##### (2) 会議・総会等

###### 1) 第1回企画委員会

開催日: 平成19年7月9日(月)

会場: 大阪市立大学 文化交流センター

###### 2) 第1回評議員会役員会合同会議

開催日: 平成19年12月1日(土)

会場: 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

###### 3) 第2回企画委員会

- 開催日：平成20年1月8日(火)  
 会場：大阪市立大学 文化交流センター
- 4)2008～2009年度評議員選挙・2007～2008年度評議員欠員選挙  
 投票期間：平成20年1月9日(水)～2月8日(金)
- 5)選挙管理委員会  
 開催日：平成20年2月25日(月)  
 会場：大阪市立大学 大学院生活科学研究科
- 6)第2回評議員会役員会合同会議  
 開催日：平成20年3月29日(土)  
 会場：常翔学園 大阪センター
- 7)支部総会  
 開催日：平成20年3月29日(土)  
 会場：常翔学園 大阪センター
- 8)優秀発表賞授賞式(支部総会時) (当年度支部大会発表の学生・若手研究者が対象)  
 今江勇紀(関西大学大学院工学研究科) 発表題目：触覚の反現運動における速度知覚の正確度  
 牧道太郎(京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科) 発表題目：自転車運動におけるビンディングペダルの効果  
 松井まり子(東洋紡株式会社総合研究所) 発表題目：歩行感に優れる靴下に関する研究
- 9)その他、評議員会・企画委員会のメール会議を実施

#### 4-6. 中国・四国支部

{支部長：大塚 彰}

- (1)理事会開催(3回)  
 第1回：2007年4月16日、場所：広島大学工学部  
 第2回：2007年12月1日、場所：香川大学工学部  
 第3回：2008年3月13日、場所：県立広島大学保健福祉学部
- (2)第40回日本人間工学会中国・四国支部大会を開催  
 開催日：2007年12月1日、場所：香川大学工学部  
 大会長：土居 俊一(香川大学工学部知能機械システム工学科)  
 大会参加人数：51名  
 予稿集広告掲載企業数：8社 予稿集印刷数：400部(残部数：60)
- (3)支部講演会開催(2回)  
 第1回：2007年11月6日、場所：広島大学工学部  
 「多視点多次元画像処理の応用技術 - ロボットタウンから骨形状の3次元推定まで -」  
 倉爪 亮先生(九州大学大学院システム情報科学研究院 教授)  
 第2回：2007年12月1日、場所：香川大学工学部(第40回日本人間工学会中国・四国支部大会 特別講演)  
 「セイフティレコーダの開発とその活用による交通安全への取り組み」  
 田野 通保先生(株式会社データ・テック 代表取締役 社長)
- (4)2006年度支部表彰(優秀論文賞)の実施  
 第39回日本人間工学会中国・四国支部大会の講演論文の中から採択された下記の論文に対し、著者全員に対して表彰状、代表者1名に対して副賞1万円を贈呈。
- ・講演番号107「作業負担軽減のための水耕ネギ栽培システムの開発」 橋本晃司、岡野仁、中村幸司、横山詔常、古川昇、越智 資泰、今井俊治、岡部 享(広島県立東部工業技術センター)
  - ・講演番号112「非接触筋電計を用いた電動車椅子の制御」 谷口 早矢佳、柴 建次、辻 敏夫(広島大学)

#### 4-7.九州支部

{ 支部長:長谷川 徹也 }

##### (1)第 28 支部評議員会

- 1)月 日:平成 19 年 12 月 15 日
- 2)会 場:ゆふいん七色の風(大分県 湯布院)
- 3)議 題:平成 19 年度活動報告と決算
  - ・平成 20 年度活動計画と予算案
  - ・平成 20 年度第 29 回大会について
  - ・その他

##### (2)第 28 回支部総会

- 1)月 日:平成 19 年 12 月 15 日
- 2)会 場: ゆふいん七色の風(大分県 湯布院)
- 3)議 題:平成 19 年度活動報告と決算
  - ・平成 20 年度活動計画と予算案
  - ・平成 20 年度第 29 回大会について
  - ・その他

##### (3)第 28 回九州支部大会

- 1)月 日:平成 19 年 12 月 15 日
- 2)会 場: ゆふいん七色の風(大分県 湯布院)
- 3)大会長:三宅晋司(産業医科大学)
- 4)研究発表:4 セッション
  - 特別講演「放射能災害 - チェルノブイリの現状と東海村臨界事故の被ばく患者及び環境汚染 - 」  
木村真三(独立行政法人労働安全衛生総合研究所)
- 5)「九州支部第 28 回大会講演集(九州人間工学 第 28 号)」の作成
- (4)「九州人間工学 第 28 号」の発送

## 5.研究部会活動

### 5-1.航空人間工学部会

{ 部会長:垣本 由紀子 }

#### (1)テーマ

航空人間工学に関する知識の普及、情報の共有化

#### (2)手段・方法ならびに成果

##### 1)例会

第 89 回例会を東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで開催し、例会の参加者数は合計 101 名が参加し活発な議論がもたれた。また、下期の活動として例会に替え施設見学会を行った。概要は以下のとおりである。

##### ・第 89 回例会

日 時:平成 19 年 7 月 12 日 10:45 - 16:40

場 所:オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)

テーマ:「最近のコックピット技術」

講 演: 最近のトピック:航空人間工学的アラスカ実験報告

航空宇宙研究開発機構(JAXA)

航空プログラムグループ 運航・安全技術チーム 津田 宏果 氏

A380 Cockpit Avionics Safety Enhancement

エアバス・ジャパン株式会社

Head of Training and Flight Operation Support, North East Asia, Airbus Captain Hugo Perez 氏

Overview brief of B787 Safety Features and Newly General Cockpit Avionics

The Boeing Company Chief Technical Pilot, 787 Captain Bill Tafs 氏

人間中心コックピットの技術研究

三菱重工株式会社民間機技術部装備設計課 山井洋一

## 2) 施設見学会

施設：日本航空安全啓発センターおよび日本航空救難訓練センター

実施日：平成20年2月26日(火)および27日(水) 13:45-16:20(受付開始 13:30～)

2月26日、27日は同じプログラムで実施。

各回ともに20名の計40名の参加があった。

施設の制約等により各回20名の定員で案内。

## 3) 委員会

本部会の運営に係る方針を決定するために、今年度は2回委員会を開催した。委員会の概要は以下のとおりである。

### 第45回委員会

日時：平成19年11月28日 15:00 - 16:30

場所：(財)航空輸送技術研究センター(ATEC)会議室

議案：第89回例会報告および今年度下期の活動について

次期5カ年活動計画(案)について

次回例会(第90回)(案)について

委員の退任について

次回委員会(第46回)委員会の開催(案)について

### 第46回委員会

日時：平成20年3月27日 15:00 - 16:30

場所：(財)航空輸送技術研究センター(ATEC)会議室

議案：平成19年度会計報告(案)について

平成19年度活動報告(案)について

次期5カ年計画(案)について

平成20年度活動計画(案)について

次回例会(第90回)テーマについて

委員の退任について

その他、委員会および例会の活動準備等のため、平成19年度は幹事会を3回開催した。

## 4) ホームページの運営

昨年度から運営したインターネットホームページにより、非会員も含め多くの関係者に対して航空安全への理解・関心を深めることに貢献した。また、例会申し込みをホームページから行えるようにしたことで会員の利便性を高めた。ホームページには過去1年間に開催された例会の講演内容を掲載し、例会に出席できなかった会員に対する支援等を行った。例会等の申し込みについてはホームページから申し込みを行う割合が増えており、今後もさらなる活用が見込まれることから一層の充実を図る。

## 5) 例会資料の電子ファイル化の継続

第1回例会(1970年3月開催)～第89回例会(2007年7月開催)までの資料をCD-ROMに記録し、これを継続して財団法人日本航空協会の運営する航空図書館に寄贈した。

注：講演者の承諾が得られたものについて実施。(過去分について一部欠落あり)

## 6)展望

活動を継続することにより、当部会の目標である航空人間工学の発展、航空安全の推進に寄与できるものと考えられる。本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-2.アーゴデザイン部会

{部会長: 上田 義弘}

(1)活動テーマ:「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン - 新たな手法を求めて -」

(2)部会運営と主な活動内容

部会員 106 名(平成 20 年 3 月 31 日現在)。

平成 19 年度はシンポジウム 3 回、コンセプト事例発表会 1 回、見学会 1 回、合宿研究会 1 回、幹事会 7 回、総会 1 回、研究会準備委員会 2 回を開催。ユビキタス方法論 WG セッション 4 回開催。

1)独自ドメインによるアーゴデザイン部会ホームページ運用、部会員メーリングネットワーク運用、幹事会メーリングネットワーク運用

2)シンポジウム開催(平成 19 年 6 月 2 日)第 48 回日本人間工学会全国大会、於:名城大学 出席者:60 名  
テーマ:「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン」-ダイナミックなユニバーサルデザインを目指して-  
司 会:新家敦(島津ビジネス)

講 演「家電ネットワーク普及で製品の使い勝手はどう変わるのか?」染谷裕(デジオン)

「サステナブル・モビリティに向けたトヨタの技術」山田 幸則(トヨタ自動車)

「ホテルにおける顧客満足 ホスピタリティ・マネジメント」中村 賢一(メルパルク東京)

3)コンセプト事例発表会(平成19年9月11日) 於:文京シビックホール、出席者:75名

「男 と女 の携帯電話プロジェクト」橋本雅美(ユアイズデザイン)「ユーザーエクスペリエンスデザインのためのペーパープロトタイプング手法の活用」山崎和彦(千葉工業大学)「さらに快適なユニバーサル車輪環境を目指して」大津慶子(首都大学東京)「長期的ユーザビリティ概念のHCDへの適用の検討」安藤昌也(総合研究大学院大学)「女性用オフィスチェアの開発」八木佳子(イトーキ)「UI仕様における利用品質作り込みプロセスの考察」尾形慎哉(ユアイズデザイン/小樽商科大学)「情報デザインの授業におけるユビキタスデザイン手法の有効性について」高橋靖(千葉工業大学)「ユーザビリティ評価タスク分析」山岡俊樹(和歌山大学)、パネル展示「遺伝的アルゴリズムを用いた感性デザイン発想支援ツール」「ユーザーエクスペリエンスデザインのためのペーパープロトタイプの事例」「長期間にわたる操作ログの記録を目的としたIrrRC-Logger:その可能性と課題」「飲食店におけるパーソナルサービスの提案」「C4による新しい美容室の提案」「定期を利用した新しい地域情報システムの提案」「農家と消費者の気持ちを共有することで生まれる新しい情報サービス」「デジタル音楽再生機とテーブル型ディスプレイを利用したカラオケの新しい楽しみ方」「デジタイザーペンに関するアフォーダンスデザインの考察」「節水を意識・実感し、楽しくするシステムのデザイン提案」

「ユビキタス・デザイン方法論WGの活動報告」 担当WG: 山崎、早川、上田、柳田、郷、高橋(克)

4)シンポジウム開催(平成 18 年 11 月 23 日)日本人間工学会第 37 回関東支部大会 於:千葉大学工学部

テーマ:「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論の提案」発表者 6 名によるパネル討論 出席者:60 名

講 演「ユビキタス時代へ向けてこれまでの活動報告」新家敦(島津ビジネスシステムズ)

「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論のアプローチ」山崎和彦(千葉工業大学)

「構造化シナリオ手法の提案」郷健太郎(山梨大学)

「構造化シナリオ手法のシナリオ事例-1」上田義弘(富士通)

「構造化シナリオ手法のシナリオ事例-2」柳田宏治(倉敷芸術科学大学)

「サービスシナリオをつくるための手法の提案」早川誠二(リコー)

「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論の今後の展開」高橋克実(ホロンクリエイト)

5)シンポジウム開催(平成 19 年 12 月 1 日)日本人間工学会関西支部大会 於:大阪府立大学

テーマ:「ユビキタス・ユニバーサルデザインの展望」発表者6名によるパネル討論 出席者:60名

講 演「ユビキタス・ユニバーサルデザインの展望」新家敦(島津ビジネスシステムズ)



- 「自動車用ドライブレコーダーの活用範囲の拡大」片山硬(久留米工業大学)  
「ユニバーサルデザイン度を考える」山岡俊樹(和歌山大学)  
「松下電器におけるユニバーサルデザインの取組みと課題・展望」松岡政治(松下電器産業)  
「アンビエント情報社会とユニバーサルデザイン」森博彦(武蔵工業大学)  
「ユビキタス時代のアーゴデザイン方法論について」上田義弘(富士通)
- 6)見学会(平成19年11月10日)中部国際空港、株式会社INAXテクノトレーニングセンター(常滑) 参加者：10名  
テーマ：「中部国際空港のユニバーサルデザインの取組み」
- 7)合宿研究会 In HACHIQUJI (H20年3月7日~8日)於：新宿マインズタワー、八王子大学セミナーハウス  
出席者：55名  
テーマ：「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論-構造化シナリオ手法の実践ワークショップ-  
特別講演：「スイカの歴史と最新動向」東日本旅客鉄道㈱ IT・Suica 事業本部 副本部長 椎橋章夫
- 8)日本人間工学会関西支部春季講演会協賛 於：大阪工大摂南大学 大阪センター 参加者：65名  
テーマ：「ものづくり企業の人間工学に基づく製品開発事例」
- 9)平成19年度部会総会(平成20年3月8日) 於：八王子大学セミナーハウス、活動報告及び会計報告
- (3)成果：ユビキタス環境でのユニバーサルデザインを踏まえたサービスからインタラクションへの構造化シナリオ手法のデザイン方法論の実践検証ができた。ユビキタスなユニバーサルデザインの方法論の実用性を高める段階となった。
- (4)問題点：構造化シナリオ手法を実践で活用する具体的な事例が必要である。
- (5)展望：部会活動の中心的課題である「ユビキタスデザイン時代のユニバーサルデザイン方法論」の具体的な活用を広報していく段階となった。本部会はこれまでの5カ年の活動をまとめ、次期5カ年の部会活動に継続することとした。

### 5-3. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長:市原 茂 }

#### (1)活動目的

当部会の活動目的は、人間の感性情報処理、およびそれらを用いた官能評価に関わる広範囲の研究領域に携わる研究者が、相互に刺激を与えあう場を作ることである。

#### (2)活動内容

##### 1)第1回講演会(平成19年7月7日 文化女子大学)

- ・和氣典二(中京大学)「高齢者の視認性と視覚的注意」

##### 2)第2回講演会「故増山英太郎先生追悼講演会」(平成20年2月9日 首都大学東京)

- ・神宮英夫(金沢工業大学)「官能評価と知覚判断そして数理心理学」
- ・児玉公信((株)エクサ)「連続加算作業における心的計算の時間分析」
- ・山下利之(首都大学東京)「増山先生と人間機械系の研究」
- ・井上裕光(千葉県立衛生短期大学)「官能評価からJIS官能評価分析へ」
- ・三好美浩(兵庫教育大学)「官能評価のためのデザイン研究とSD法」

##### 3)第16回システム大会(平成20年3月14日~16日 八王子セミナーハウス)

今年のシステム大会は、感性情報処理・官能評価部会の支援のもとに首都大学東京が担当校となった。

プログラムの編成上「感性官能セッション」は結果的に3題であったが、部会のメンバーは、「ヒトをはかるセッション」、「視覚/聴覚セッション」、「学生セッション」でも発表し、合計10題の発表があった。

「学生セッション」(平成20年3月14日)

- ・並木勇知(東京都立大学)「インタラクティブな状況における情動喚起が記憶へ及ぼす影響」
- ・苅込憲司(東京都立科学技術大学)「ラフ集合を用いたCMに関する研究」
- ・武千鶴(東京都立大学)「色聴保持者によるノンバーバルマッピングの一般受容と音感の関連性について」
- ・菅谷留美子(東京都立大学)「物体の提示位置が物体の大きさ知覚に及ぼす効果」

- ・住廣孝子(東京都立大学)「香りの混合と色彩イメージ」  
「ヒトをはかるセッション」(平成 20 年 3 月 14 日)
  - ・田中吉史(金沢工業大学)「Web サイトの美的側面がユーザーの再訪意向に与える影響」  
「視覚/聴覚セッション」(平成 20 年 3 月 15 日)
  - ・大島研介(首都大学東京)「対象の触り方が視覚と触覚の関係性に与える影響」  
「感性・官能セッション」(平成 20 年 3 月 15 日)
  - ・千田明(首都大学東京)「アニメーションにおける“オバケ”の心理学的研究」
  - ・木村洋太(京都大学)「顔の魅力判断における自己表情表出と表出タイミングの効果」
  - ・椋代弘(岡山県工業技術センター)「車いす座り心地に及ぼす姿勢保持装置の効果」
- 4) 各行事開催や部会にあたって幹事会を開催した。
- ・第 1 回幹事会(平成 19 年 5 月 31 日首都大学東京):平成 19 年度の具体的活動計画、講演会について
  - ・第 2 回幹事会(平成 19 年 7 月 7 日文化女子大学):講演会について
  - ・第 3 回幹事会(平成 19 年 9 月 10 日文化女子大学):システム大会について
  - ・第 4 回幹事会(平成 19 年 12 月 15 日首都大学東京):システム大会、講演会について
  - ・第 5 回幹事会(平成 20 年 2 月 9 日首都大学東京):講演会について
  - ・第 6 回幹事会(平成 20 年 2 月 29 日首都大学東京):システム大会について
  - ・第 7 回幹事会(平成 20 年 3 月 14 日八王子セミナーハウス):システム大会について
  - ・第 8 回幹事会(平成 20 年 3 月 16 日八王子セミナーハウス):次回システム大会開催について

### (3) 成果

今年は 2 つの講演会を行ったが、いずれの講演会も充実した内容で、活発な質疑応答がなされた。前者は、高齢者の視覚・認知研究の第一人者の和氣典二先生の講演で、講演者の長年にわたる研究の成果と最近の実験研究が詳細に紹介され、聴衆のよい刺激となった。後者は、増山英太郎先生に指導を受けた 5 名の研究者による講演であった。増山先生が生前力を注がれた制御理論と官能評価研究に関連した内容の濃い研究が紹介され、参加者一同で先生の偉業を偲んだ。システム大会では、その開催の支援を行うと同時に、官能評価における最新の諸研究を紹介した。あわせて 10 件の研究報告があり、これも充実した内容であった。特に、学生セッションの報告が 5 件もあり、学生の積極的な参加を促すことができたのが、大きな収穫であった。

### (4) 展望

本部会は 5 力年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-4. 看護人間工学部会

{ 部会長: 西田 直子 }

### (1) テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出していくための研究成果を積み上げる。

### (2) 手段・方法

#### 1) 第 15 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

2007 年 9 月 22 日(土)に札幌市立大学看護学部において、札幌市立大学看護学部の樋之津淳子教授が主催し、第 15 回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を行った。

- ・特別講演は酒井正幸先生(札幌市立大学デザイン学部教授)に「ユニバーサルデザイン - 看護とデザインの接点 -」を依頼し、実施した。また、デモンストレーションは、野呂影勇(エルゴシーティング株式会社 CEO、CTO 兼代表取締役)に「医用高機能椅子座面の研究」を依頼し、実施した。参加者は、50 名であった。

- ・総会では、昨年に引き続き、看護領域の研究成果を共有するため、日本人間工学会会員に看護人間工学部会への入会を呼びかけるとともに看護人間工学部会員が日本人間工学会会員であることの確認を行った。平成 19 年度の事業報告と平成 19 年度予算案が承認された。

規約の変更により第 1 条 本部会を看護人間工学部会の事務局が大阪大学から京都府立医科大学に変更された。

第4条 本部会の役員の総務6名から総務4名、渉外2名、編集委員6名、HP委員2名、会計監査役2名をとなり、任期は2年間となった。名誉会員として看護人間工学部会に長年にわたりご尽力頂いた野呂影勇先生を名誉会員として承認した。役員の改選(任期：平成19年9月21日～平成21年9月第17回総会まで)を行い、部会長に西田直子が承認された。人間工学学会における「看護人間工学部会」の継続について本会に継続の申請書を提出することが承認された。平成20年度看護人間工学部会第16回総会・公開研究会・講演会の開催会長は 岩手看護短期大学の平野三千代教授に承認された。

#### 2) 第16回システム連合大会への参加

2008年3月14日(金)～3月16日(日)に八王子セミナーハウスで開催された、第16回システム連合大会に参加した。第16回システム大会<第3日目>3月16日(日曜日)9時30分から看護人間工学セッションが行われた。部会からの参加者は10名であった。

#### (3) 成果

1) 第15回看護人間工学部会公開研究会では、下記のような演題13題が発表された。

- ・介助による車いすの発進・停止操作における速度変化と乗り心地との関係
- ・気管挿管チューブの固定力の検討 - 顔面へのテープ固定別の比較 -
- ・診察に同席する陪席者の笑顔とうなずきによる患者への影響
- ・点滴スタンドの使用感に関する調査(第1報)
- ・点滴スタンドの使用感に関する調査(第2報)
- ・初産婦の「姿勢コントロール行動」に対する自己効力感を醸成する刺激因子
- ・看護人間工学部会会員数の伸び悩みと人間工学の知名度について
- ・電動ベッドの背上げ機能が下腿のむくみに及ぼす影響
- ・病室環境における「快適性」実現のための調査研究(1)
- ・「笑い」の心臓に対する負荷のかたちについて
- ・洗髪ケアにおける看護師の腰部負担の現状
- ・病院の窓からみた緑景観と心理的反応の関連
- ・作業姿勢から見た患者移動動作の看護者への腰部負担の違い

2) 第16回システム連合大会で、演題5題が発表された。

- ・洗髪時のファーラー位と椅座前屈位による身体への影響
- ・健康な20代女性の - エンドルフィンの日内変動値
- ・意図的タッチングの心理的効果の検討
- ・Dementia とコンパートメントシステム
- ・看護におけるマットレス研究の意義と実験の経過

3) 看護人間工学研究誌第8巻を発行(平成20年3月)し、部会員に送付した。

- ・内容は投稿原稿4件、第15回看護人間工学部公開研究会での特別講演などでした。

#### (4) 問題

- 1) 看護人間工学部会会員が本会の会員でない人がいる。
- 2) 人間工学誌への投稿が少ない。
- 3) 部会のホームページにおいて研究成果の abstract に英語版を設けることを目標として取り組んできたが、十分に行うことが出来なかった。

#### (5) 展望

- 1) 看護人間工学部会員の本会への入会促進についても引き続き取り組んでいくこととする。
- 2) 日本人間工学会学術集会への発表と本会誌の投稿を促進する。
- 3) 看護人間工学研究誌発行の充実をはかる。
- 4) 看護人間工学部会のホームページにおいて研究成果の abstract に英語版を設けるよう取り組む。
- 5) 本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-5. 海上人間工学研究部会

{ 部会長:大橋 信夫 }

### (1)活動目的

第一次産業の労働に関するテーマについて検討を行なった。第一次産業を対象とした人間工学の各分野の連携による活動の中で、これまで明らかにした農林漁業共通の労働の特徴を総括した上で、国内の漁業振興に向けた、労働条件や作業環境改善のための指針を明らかにすることを目的としている。

### (2)活動内容及び成果

#### 1)研究会開催

日本人間工学会第48回定期大会中(平成19年6月2日、名城大学(名古屋))において研究部会を開催した。平成18年度に行なったシンポジウムの内容の確認と、今後の活動計画について検討を行ない、年度内に一次産業就労に必要な技術や技能習得について研究会を開催することとなった。

#### 2)第一次産業労働研究会開催

第一次産業における労働環境の特徴や、従事する上で必要な技術や技能習得のための就業支援方法について議論する場として、研究会を開催致した(平成19年10月20日、水産大学校(下関))。農業、林業、漁業の各産業における労働の特徴と作業の安全性、または就業促進・支援の取り組みに関する話題提供と、今後の国内第一次産業の労働に関する見通しについて、様々な視点から検討することができた。

#### 3)部会ホームページの更新

部会の活動報告や情報交換の場として、ホームページの内容を更新し、学会員への情報提供を行なった。

### (3)問題点及び展望

これまで、日本人間工学会海上人間工学研究部会の活動の中で、国内第一次産業(農林漁業)の労働を対象とした研究会やシンポジウムを行なってきた。その一環として、日本人間工学会第49回定期大会において、「第一次産業就業者の技能修得について」と題してシンポジウムを開催することとなった。同シンポジウムでは、第一次産業を行なう上で必要な「就業者の技能」をテーマに、主に新規就業者の技能修得支援方法や、技能の技術化という側面から作業環境改善に向けた人間工学の課題について議論し、第一次産業を対象とした研究分野の連携や課題解決に向けたアプローチの方法について明らかにすることを目的とする。すなわち、問題認識と就業における技能修得の現状に関連して、これまで明らかにしてきた内容を各産業間で比較し、効果的な技能修得支援方法と、作業環境において改良や新技術導入が必要な要素技術について検討を行い、今後の部会活動の可能性を模索する。本部会は5カ年の期限を迎え、今期で終了することとした。

## 5-6. 口と健康部会

{ 部会長:山本 宏治 }

### (1)活動目的

歯学教育再生に対する人間工学的関与

### (2)活動内容

近年の歯学卒前教育では、従来の医学的知識重点の教育にかわって、実際の治療技術や医療面接等の対話技術などの臨床能力養成の重要性が認識されるようになってきている。臨床実習直前に行われる共用試験における「客観的臨床能力試験」や、歯科医師国家試験への実技試験の実施などが議論されているなか、臨床技能の効果的な教育法および評価法はいまだ確立されていない。本部会では、人間工学的立場から、歯科医療技術教育のための指針、効果の高い教授法、妥当性の高い評価法について議論する目的で研究発表大会を行った。下記はその内容である。

#### 1)第23回研究発表大会

開催日：平成19年9月2日(日曜日)

場 所：ホテル岐阜キャッスルイン

大会長：朝日大学歯学部口腔機能修復学講座 山本宏治

#### 一般講演

1. 歯科人間工学技術戦略ロードマップ作成への提案  
井上正義 (大阪歯科大学)
2. 日本歯科保存学会教育問題検討委員会アンケート結果から  
川上智史(北海道医療大学・個体差医療科学センター)
3. マウスガードが有酸素運動時の疲労に与える影響  
犬飼敏博、柴田紀幸、伊藤裕(愛知学院大学歯学部・補綴第三講座)
4. レーザー歯学教育について  
山本敦彦、山本宏治(朝日大学歯学部・口腔機能修復学講座)
5. フィンランド・トゥルク大学歯学教育の現状  
大橋静江、山本宏治(朝日大学歯学部・口腔機能修復学講座)  
-シンポジウム-  
「歯学教育を対象とした診療シミュレーション教材について」- 歯学基礎実習の現状と今後 -

1. 双方向マルチメディア実習台について  
越智 守生 北海道医療大学歯学部
2. 東京歯科大学における歯学基礎実習の現状と今後  
高瀬 保晶 東京歯科大学
3. 朝日大学歯学部の基礎実習の今後の方向  
都尾 元宣 朝日大学歯学部・口腔機能修復学講座
4. 福岡歯科大学における歯学基礎実習の現状と今後  
廣藤 卓雄 福岡歯科大学・総合歯科学講座総合歯科学分野

#### 2) 幹事会の開催

- 第61回 平成19年7月6日(金)岐阜都ホテル  
第62回 平成19年9月1日(金)ホテル岐阜キャッスルイン

#### 3) 第23回研究発表大会講演論文集発行

#### (3) 今後の展望

本研究大会における活発な討論を通して歯学教育の現状が明確化された結果、今後の歯科医療技術教育のための指針が明瞭となった。すなわち、全ての歯科大学における歯学教育の統一化とそれに伴う臨床技能の効率化のための器材の開発ならびにPBLに基づく各種シミュレーションシステムの開発が必要であった。従って、本学会においても今後の研究課題として取り組む方針である。本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-7. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長: 森 博彦 }

#### (1) 平成19年度活動テーマ

平成19年度は下記の二つをテーマとして掲げ、活動を行ってきた。

- ・ユビキタス社会とポストユビキタス社会における情報サービスの人間中心設計
- ・情報社会のサービス創出のためのシナリオ法と要求分析手法

#### (2) 活動内容(手段・方法)

##### 1) 第48回全国大会におけるシンポジウムの開催

平成19年度日本人間工学会全国大会において、「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン - ダイナミックなユニバーサルデザインを目指して -」のテーマで、下記の内容のシンポジウムをアーゴデザイン部会と共催した。

- ・司会: 新家敦((株)島津製作所)

#### ・講演

1. 染谷裕(株式会社 デジオン 企画・マーケティング統括)

「家電ネットワーク普及で製品の使い勝手はどう変わるのか？」

2. 山田幸則(トヨタ自動車株式会社 レクサス電子設計部 第4 レクサス電子設計室 室長)

「サスティナブル・モビリティに向けたトヨタの技術」

3. 中村賢一(メルパルク東京 フロント副支配人 東洋大学大学院国際観光学修士課程 高崎商科大学短期大学 部非常勤講師)

「ホテルにおける顧客満足 -ホスピタリティ・マネジメント-」

## 2)平成 19 年度関西支部会におけるシンポジウムの開催

平成 19 年 12 月 1 日に開催された関西支部大会において、アーゴデザイン部会と共催でシンポジウムを開催した。

セッションテーマ：「ユビキタス・ユニバーサルデザインの展望」

司会：新家敦((株)島津製作所)

講演：

1. 片山硬(久留米工業大学)、堀野定雄(神奈川大学)

「自動車用ドライブレコーダーの活用範囲の拡大」

2. 山岡俊樹(和歌山大学)

「ユニバーサルデザイン度を考える」

3. 松岡政治(松下電器産業(株))

「松下電器におけるユニバーサルデザインの取り組みと課題・展望」

4. 森博彦(武蔵工業大学)

「アンビエント情報社会とユニバーサルデザイン」

5. 上田義弘(富士通(株))、郷健太郎(山梨大学)、高橋克美((株)ホロンクリエイト)

早川誠二((株)リコー)、柳田宏治(倉敷芸術科学大学)、山崎和彦(千葉工業大学)

「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論の提案」

## 3)計測自動制御学会誌「計測と制御」特集号編集

これまでの部会活動成果のまとめとして、「計測と制御」平成 20 年 2 月号に特集号を組んだ。

セッションテーマ：「ユビキタス・ポストユビキタス時代における人間中心のサービス設計」

ゲストエディタ：森博彦(武蔵工業大学)

論文：

1. 森博彦(武蔵工業大学)「ユビキタスの3層モデルと人間中心設計」

2. 郷健太郎(山梨大学)「ユビキタス時代のサービス・コンテンツのシナリオベーストデザイン」

3. 山崎和彦(千葉工業大学)「ユビキタス時代のユーザエクスペリエンス」

4. 平沢尚毅(小樽商科大学)「人間中心設計からユビキタス時代のシステムを構想する」

5. 柳田宏治(倉敷芸術科学大学)、山崎和彦(千葉工業大学)「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン」

6. 伊藤誠(筑波大学)「ITSにおける人間と機械の機能分担」

7. 堀野定雄(神奈川大学)「ユビキタス時代の安心・安全のためのアプローチ」

8. 山岡俊樹(和歌山大学)、新家敦(和歌山大学)「観察の方法」

9. 山本栄(東京理科大学)「ユビキタス時代の災害情報提供サービス」

## 4)ワークショップの開催

平成 19 年 3 月 28 日にワークショップを行った。テーマ、内容は以下の通りである。

テーマ：「変革」 司会：平沢尚毅(小樽商科大学)

問題提起：葛西秀昭(小樽商科大学) 尾形慎哉(U'eyes Design) 三澤 直加(U'eyes Design)

ディスカッション「人間工学の変革」

## (3)成果

アーゴデザイン研究部会とのシンポジウム開催を通じて、ユビキタスコンピューティングにおける人間工学的課題、ユビキタス社会のとらえ方として3層モデルの考え方が共有することができ、また、サービス開発方法としてフォトシナリオ法を様々なところで実践し、広く活用されるようになった。さらに、ユビキタスとユニバー

サルデザインに関する研究会を立ち上げることができた。また、これらの成果は出版物として発表し、社会に広めることができた。

(4)問題点

研究部会のテーマの重要性は、シンポジウムや合同研究会を通じて理解していただいているが、また、多くの学会員の方には理解が浸透しているとは言えない。そのため、ホームページ等を通じた広報活動が必要と思われる。

(5)展望

平成20年3月の幹事会で、部会長を小樽商科大学平沢尚毅先生に交代することが認められた。来年度は新部会長の下、社会と技術の関係性を捉える新しい枠組みと方法論についての開発を目指していきたいと考えている。本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-8 聴覚コミュニケーション部会

{部会長:江袋 林蔵}

- (1)当部会は、Auditory Ergonomics 分野における内外研究者の聴覚コミュニケーション研究情報の交流を図り活動を推進している。
- (2)研究者間の情報交換、当該分野活動の充実を図るため次のような活動を企画した。
  - 1)研究会の開催
  - 2)幹事会の開催
  - 3)ニュースレターの発行
  - 4)ホームページの更新
- (3)当部会単独或いは、音響学会との聴覚研究会共催を企画し、また部会内コミュニケーションと広報活動の強化を図った。
  - 1)研究会の開催
    - a 聴覚コミュニケーション研究会の開催
    - b 音響学会 聴覚研究会の共催
  - 2)幹事会の開催  
部会運営上の案件につき幹事会ネット上で随時開催する。
  - 3)ニュースレターの発行  
幹事会議事結果/審議案件・研究会情報等を随時部会員ネットを通じて広報する。
  - 4)ホームページの更新  
主要な部会活動を、行事の都度ホームページ内容を更新広報する。
- (4)以下の通りの経過で所定の成果を上げることができた。
  - 1)研究会
    - a 聴覚コミュニケーション研究会開催  
第2回聴覚コミュニケーション研究会開催  
日時：2007年9月5日  
場所：昭和音楽大学  
テーマ：聴覚と音楽・教育/聴覚コミュニケーション基礎  
発表件数：7件  
発行資料：聴覚コミュニケーション研究会資料 Vol.2 No.1
    - b 音響学会 聴覚研究会の共催  
第3回 音響学会聴覚研究会 共催  
日本音響学会超音波暴露調査研究委員会  
日本人間工学会聴覚コミュニケーション部会  
日時：2007年11月20日  
場所：独立行政法人 産業技術総合研究所総合研究所（茨城県つくば市東）  
テーマ：聴覚一般/超音波  
発表件数：8件  
発行資料：聴覚研究会資料 Vol.37 No.9 H-2007-126～H-2007-133

## 2)幹事会

上記活動、JES 大会・IEA 活動貢献・次年度活動計画・新会員入部審査等随時開催

## 3)ニュースレター

幹事会審議結果等の部会内広報を随時行った。

## 4)ホームページ

研究会活動状況の広報改版を行った。

(5)部会活動は所定の成果を収めたが、活動が関東と九州に限られている現状改善、および、音響学会との共催研究会を通じて、共通部分を一層強化すると共に、Auditory Ergonomics 独自の新たな研究領域探索の見通しを立てる必要を強く感じた。

1)部会活動が関東地区に偏ることが問題になった。

2)研究活動における JES の独自性の探索。

3)その他 部会員の関心 研究活動の発掘

## (6)展 望

1)研究会活動の開催地域を検討し直す。

2)他学会との関わりの中から JES 独自性の探索を継続する。

3)その他

部会員の関心に応じたサービスの提供を課題として活動する。

研究活動の発掘を継続する。

4)本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-9. 医療安全研究部会

{ 部会長:土屋 文人 }

### (1)活動目的

昨今多発している医療事故の多くは、医薬品や医療用具と人間との間のインターフェースあるいは人間同士におけるコミュニケーションに問題があると考えられる。臨床で発生した事故あるいはヒヤリハット事例の報告が外部から参照できるようになった今、その問題解決のために人間工学的観点から医療安全を図る方策を検討することによって、医療安全に寄与することを目的とする。

### (2)活動内容及び成果

本年度は4月に改正医療法及び薬事法が施行され、医療機関及び薬局は医薬品安全管理責任者の設置と医薬品の安全使用のための業務手順書の作成が義務づけられた。業務手順書については作成に3ヶ月の猶予期間が与えられた。当初の計画では、研究部会で医療機関を対象とした研修会の開催を年度内に開催する予定であったが、医療機関における手順書の装備やそれに伴うチェック体制等の整備が必ずしもうまくいっていない現状に鑑み、研修会は来年度に開催を計画することとした。また、11月29日に開催された第2回横幹連合カンファレンスにおいては、医薬品を対象とした発表が行われた。今後も横幹連合との協調体制を続ける予定である。

一方、医療機器については、医薬品同様、改正医療法が4月から施行され、医療機関では医療機器安全管理責任者の設置が義務づけられた。医療機関においては数多くの医療機器を使用しているが、臨床工学技士等の医療機器の保守点検管理等を専門に行う人材を配置している医療機関は少なく、医師、看護師等で行っている施設が多い。また、医療機関には医療機器の購入を順番に行うため、たとえば人工呼吸器等においても、最新のものから、使用期限に近いものまで、多種類の機器を使用しているのが通常であり、専門家の不在と相俟ってエラーの発生が生じているのが現状である。過去のエラー事例への対策を含め、医療機器メーカーにより努力がなされているものの、医療機関の体制を含め不十分な点が多く見られる。本研究部会では医薬品同様、医療機器に対しても企業を含めた研修会等の開催を計画していたが、残念ながら年度内に実施することができなかった。なお本部会は5カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。



## 5-10. 衣服人間工学部会

{ 部会長: 間壁 治子 }

### (1) 活動目的

当部会は、平成 14 年度より「人間と衣服との関係の評価について」をテーマに活動を行ってきたが、19 年度は参加型での勉強会や見学会などを企画し活動することを目的とした。

### (2) 活動内容

平成 19 年度は、役員会を 2 回、例会 2 回を開催した。活動内容と演題は以下の通りである。

#### 1) 第 1 回役員会

開催日：平成 19 年 5 月 19 日

場 所：共立女子大学

#### 2) 第 1 回例会（視察研修旅行）

開催日：平成 19 年 8 月 9 日～10 日

場 所：群馬県太田市 桐生市

内 容：ニット縫製工場や織物工場などの視察見学

参加者：部会長以下 15 名

#### 3) 第 2 回役員会

開催日：平成 19 年 10 月 25 日

場 所：共立女子大学

#### 4) 第 2 回例会（意見交換会）

開催日：平成 20 年 3 月 8 日

場 所：共立女子大学

テーマ：衣生活の現在・過去・未来

発表者：磯崎明美(文化女子大学) 別府美雪(共立女子大学(非))

土肥麻佐子(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

参加者：部会長以下 15 名

### (3) 成果

- ・視察旅行に関しては少人数であったため見学もし易く、じっくり視察できた。ニット工場や縫製工場など日本の現状を見ることが出来、有意義であった。また今後の教育活動にも役立つ内容となった。参加者から好評をいただいた。
- ・意見交換会でも人間工学がかかわる衣生活全般について活発な意見交換ができた。
- ・メーカーの若手の方の参加もあった。

### (4) 問題点

- ・以前より問題点として挙げているが、産学共同で、より衣服人間工学発展のため、さらに議論・検討を進める必要がある。
- ・若手人材の育成も急務と考える。

### (5) 展望

本部会は 5 カ年の期限を迎えることから終了し、次期に新部会として活動を継続することとした。

## 5-11. 人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会

{ 部会長: 富田 豊 }

本研究部会は、2006 年度に引き続き、2007 年度も経済産業省より、ロボット分野に関するアカデミックロードマップ (ARM) の作成に関する研究を行う委託を受けた。詳細は以下の通りである。

- (1) 今回のロボットに関する研究の名称は「ロボット分野に関するアカデミックロードマップの作成に関する研究」である。仕組みは、経済産業省が(株)KRI に全体を委託して、ロボット分野については(財)製造科学技術センター(以下 MSTC)が KRI から再委託した。さらに MSTC が日本人間工学会・日本ロボット学会・人工知能学会との間に

前記のロードマップ作成に関する覚書を作成して研究を行うものである。

- (2)組織形態はMSTCに3ロボット関連のARM委員会を設置(人間系融合領域ARM委員会、情報系複合領域ARM委員会、工学系先端領域ARM委員会)し、各委員会は、関係する学会から推薦された委員により構成され、各成果物をまとめる。日本人間工学会が関与するARMは人間系融合領域ARMのみで、日本人間工学会、日本ロボット学会、人工知能学会からの委員で構成されている。
- (3)3学会は、ARMに委員を派遣するとともに、各学会内にそれらの研究を支援するワーキンググループ(以下WG)を設置し、一定のテーマの研究を取りまとめる。日本人間工学会では2006年度に本研究部会を設置した。本年度も引き続き設置している。
- (4)本研究のスケジュールは、数回の会合の後、全体報告書を2008年3月末に取りまとめた。
- (5)経済産業省への報告書のうち、本学会員の執筆した部分について、本年度の「人間工学」別刷りで学会員に配布した。
- (6)以下のように研究部会のみ活動、および人間工学技術戦略委員会との共同の活動があった。また、成果物はCDに記録されており、必要な方々は事務局にご連絡頂ければ配布できるようになっている。今後WEBで閲覧できるようにする予定である。
- (7)活動日程
  - 1)6月2日:本学会大会にて日本人間工学会、日本ロボット学会、人工知能学会から代表者が成果を発表した。
  - 2)6月21日:人工知能学会にて日本人間工学会、日本ロボット学会、人工知能学会から代表者が成果を発表した。
  - 3)6月28日:技術戦略委員会と合同で拡大作業会を開催した。
  - 4)8月16日:3学会ロボット分野アカデミックマップ人間系融合領域委員会を開催した。
  - 5)8月29日:経済産業省ロボット分野ARMにて、「人間とロボットが調和する社会を目指して」と題して岡田有策教授(慶応大学)が発表した。
  - 6)9月13日:日本ロボット学会にて日本人間工学会、日本ロボット学会、人工知能学会から代表者が成果を発表した。
  - 7)9月29日、30日:3学会ロボット分野アカデミックマップ委員会を伊東市にて合宿形式で開催した。
  - 8)10月27日、28日:3学会ロボット分野アカデミックマップ委員会を逗子市にて合宿形式で開催した。
  - 9)1月7日:人間系融合領域委員会を開催した。
  - 10)1月9日:3学会ロボット分野アカデミックマップ委員会を伊東市にて合宿形式で開催した。
  - 11)3月12日:3学会ロボット分野アカデミックマップ委員会を伊東市にて合宿形式で開催した。

## 5-12. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長: 山本 栄 }

部会立ち上げのための、広報活動、研究活動の現状調査を行った。

また、平成20年3月31日段階での部会員数は28名である。

H19年度の活動詳細は以下の通りである。

- (1)第1回ワークショップの開催  
平成19年5月28~29日、青山学院大学青山キャンパス  
講演1件、演題14件、参加者42名
- (2)WG9 東京会議の支援と最新情報の取得および現状の把握と問題点の把握  
今回の部会立ち上げの一つのきっかけは、ISO/TC159/SC4/WG9 が立ち上がったことである。このためWG9 活動の動向に注目し、WG9 の国際メンバーとの意見交流と研究動向調査を行った。  
H19年5月30日から6月1日(東京、日本)  
H19年9月24日から26日(デルフト、オランダ)のWG9 会議に出席
- (3)人間工学会第48 回大会(名古屋、名城大学)でのシンポジウム開催  
触覚インタラクション研究部会へのお誘いとして、人間工学会第48 回大会にて、部会主催のシンポジウムを開催した。

H19年6月2日、名城大学天白キャンパス(名古屋、日本)

シンポジウムタイトル:

『触覚インタラクション研究部会へのお誘い』

『 日本人間工学会 触覚インタフェース研究部会設立 』

## 6. 認定人間工学専門家部会

{ 部会長:青木 和夫 }

### (1) 資格認定試験実施状況

資格認定試験(A方式試験)を1回実施、受験3名、合格2名であった。また、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を2回実施、受験2名、合格1名。準専門家に応募23名、書類審査に23名が合格、準専門家として登録された。

### (2) 定期総会の開催

日時 2007年4月21日(土) 10:30~11:30

会場 中央大学 駿河台記念館 6階 670室

### (3) 臨時総会・講演会の開催

1) 臨時総会 日時 2007年10月27日(土)16:00~17:00

会場 日本大学理工学部駿河台1号館2階122会議室

2) 講演会 日時 2007年10月27日(土)13:30~15:50

会場 日本大学理工学部駿河台1号館2階122会議室

テーマ 「安心で安全、快適な生活のために、人間工学が果たすべき新たな役割」

演者 赤松幹之(独立行政法人 産業技術総合研究所)

岡本郁子(日本アイ・ビー・エム株式会社)

山口孝夫(独立行政法人 宇宙航空研究開発機構) 幹事会

### (4) 幹事会の開催

第19回:日時 2007年7月30日(月)17:00~20:00

会場 日本大学理工学部駿河台9号館935会議室

第20回:日時 2007年8月31日(金)17:00~19:40

会場 日本大学理工学部駿河台9号館935会議室

第21回:日時 2007年10月1日(月)17:00~19:00

会場 日本大学理工学部駿河台9号館935会議室

第22回:日時 2007年12月13日(金)~20日(木)

電子メール会議

第23回:日時 2008年3月26日(水)13:00~17:00

会場 日本大学理工学部駿河台5号館590会議室

### (5) 再認定の促進

専門家資格の再認定の必要な部会員に対して積極的にはたらきかけを行い、再認定申請に必要な条件を満たすための条件を73名がクリアした。

### (6) 試験問題、ガイドブックの改訂の検討

試験問題の出題方式の見直しとガイドブックの改訂に向けて検討を行った。

### (7) 部会報作成

部会報を4回発行した。

# 平成20年度事業計画(案)

## 1. 事業計画

{総務担当: 齋藤 真}

- (1) 一般社団法人設立登記及び公益社団法人認定を実現するため、政令、関連ガイドラインに準拠させるための諸要件および設立登記申請書類の整備・確立等を行い、設立手続きを実施する。
- (2) 第49回大会を間壁治子大会長のもと平成20年6月14日～15日に共立女子大学で開催する。
- (3) 評議員会および定期総会を平成20年6月14日に共立女子大学において開催し、平成19年度事業報告・収支決算、平成20年度事業計画・収支予算の審議等を行う。
- (4) 第50回記念大会を赤松幹之大会長のもと平成21年6月10日～11日につくば市で開催することとし、準備を進める。学会に設置した大会担当と連携し、記念大会の効率的な運営を目的に具体的な方策の検討を行う。
- (5) 理事会を年6回開催する。
- (6) 機関誌「人間工学」の第44巻2～6号および第45巻1号の計6冊を発行する。
- (7) (株)メテオ社と機関誌「人間工学」の文献電子配信承諾契約を結び、機関誌第25巻(平成元年)以降の掲載論文を(株)メテオ社を通じて電子データ化、配信システムを通して有償提供し、広く学術的利便性の向上を図る。
- (8) 認定人間工学専門家資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回程度実施、また人間工学準専門家および人間工学アシスタント各試験を年4回実施する。その他、ガイドブックの改訂、再認定制度(生涯研修制度)推進等の活動を行うとともに資格制度の対外アピールを積極的に行う。
- (9) 長期的に事業を行う常設委員会・担当と、特定の目標を定め次年度総会までに得られた成果を学会として組織的に活用する臨時委員会・担当を置く。常設委員会・担当としては、広報委員会、編集委員会、国際協力委員会、ISO/TC159国内対策委員会、表彰委員会、日本学術会議担当、また臨時委員会・担当として、企業の人材育成プログラム開発委員会、人間工学技術戦略委員会、人間工学研究ガイドライン検討委員会、支部・部会・大会担当、法人化担当を設置し、各事業を積極的に進める。
- (10) 人間工学技術ロードマップの継続的更新および策定した技術戦略ロードマップの活用について具体的に検討を進める。
- (11) 支部活動および研究部会活動を推進するとともに活動の見直しを行う。研究部会は、口と健康部会、情報社会人間工学研究部会、聴覚コミュニケーション部会、医療安全研究部会、衣服人間工学部会、人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会、触覚インタラクション研究部会、航空人間工学部会、アーゴデザイン部会、感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会の計11部会で活動を行う。さらに6つの新旧部会組織が合流したシステム大会を開催する。
- (12) IEA(国際人間工学連合)と連携して様々な国際協力活動を推進する。IEA理事会(8月9～10日、レイキャビク)への出席、IEAアワード申請への協力、IEA内の各委員会への協力をを行う。JES / ESK(大韓人間工学会)合同シンポジウム(6月15日、共立女子大学)を開催するとともに、平成21年の韓国での開催に向けて協力準備を進める。
- (13) 賛助会員を対象とした講演会(兼、一般に向けた人間工学啓発のための講演会)を平成21年1月に開催する。
- (14) 平成20年度大島正光賞および研究奨励賞の受賞論文、優秀研究発表奨励賞の受賞演題を決定し、各受賞者に同賞を授与する。また、名誉会員候補・学会功労賞候補の選考、国際表彰への対応、表彰制度の整備を行う。
- (15) 産学官連携を含めた他学会等との共同事業を広く展開するとともに、人間工学の社会への普及および啓発を図るため、公開講座、セミナー、シンポジウムの開催および共催等の事業を行う。
- (16) 日本学術会議との連携強化、関連学術団体との連絡および協力を進め、人間工学の普及に努める。
- (17) 学会事務局の業務運営の合理化については、前年度において会員管理業務のweb管理システムソフトの開発、および会員管理業務の外部委託を試行したが、試行を継続して合理化の判断を行い、会員管理業務の本格的な外部委託を推進する。対象業務は、webによる新会員申し込み手続き・会員管理業務・支部長による各支部会員管理であり、退会および会員データベースの変更についてのweb化にも取り組む。

## 2. 委員会・担当活動

### [常設委員会・担当]

#### 2-1. 広報委員会

{委員長:吉武 良治}

- (1)理事会、支部、委員会、研究会などと連携・協力のもと、ホームページを中心に広報活動を推進することによって人間工学の普及に努める。
- (2)グッドプラクティス DB の取り組みを継続・実施することによって学内外における人間工学の関心を高める。さらに、ホームページの刷新および人間工学パンフレットの作成など、広報としての活動を幅広く充実させる。
- (3)本委員会発足時に掲げた任期内事業計画に基づき活動を進める。
- (4)学会員の意見を広く聴取し、広報活動のあり方についての検討を行う。

#### 2-2. 編集委員会

{委員長:加藤 象二郎}

学会誌「人間工学」の年6号分の通常の編集・発行業務に加えて、以下の事項について検討を行う。

- (1)投稿原稿の査読に関して、さらなる効率化と迅速化をはかる。
- (2)査読者(編集委員を除く)に対する薄謝の適用拡大について検討する。
- (3)毎巻5号を特集号とする編集活動及び既設の研究部会活動を総説として掲載する。
- (4)学会員からの提案企画、企業、研究機関における人間工学的活動の掲載について検討する。
- (5)編集委員会のホームページをさらに充実させ、学会員ならびに論文投稿者の利便をはかる。
- (6)平成21年「大島正光賞」と「研究奨励賞」の受賞候補者の選考を行う。

平成20年度の編集委員会は、奇数月に開催を予定している。なお、必要に応じて偶数月には電子編集委員会を開催する。

#### 2-3. 国際協力委員会

{委員長:堀江 良典}

- (1)第11回日韓ジョイントシンポジウム(6月15日、共立女子大学)開催に際し、大韓人間工学会国際担当と連携してJES窓口として会員参加への協力
- (2)IEA理事会(8月9~10日)への参加 レイキャビク(アイスランド)  
国際協力委員が council member として3名、ならびに alternate member 1名が出席予定
- (3)国際協力活動およびその他
  - ・IEA アワード申請への協力
  - ・IEA 内の各委員会への協力
  - ・学会内各委員会などへ国際協力委員としての参加

#### 2-4. ISO/TC159国内対策委員会

{委員長:横井 孝志}

- (1)基本活動方針：
  - 1)産業界への人間工学規格の普及にも配慮しながら、産業界の活性化や国際競争力強化に繋がる規格の策定や審議を進める。SC1、SC3、SC4、SC5、WG2 における個々の規格原案の吟味や投票案件に対応すると共に、日本からのNMI提案や改訂作業への積極的関与に努める。さらにNMI提案や原案審議では、国内外の産業界での重要性や日本を含むアジア圏の状況を反映した内容を盛り込む。また有益な規格についてはJIS化を検討する。
  - 2)会議：全体会議4回、分科会延べ30回前後開催予定
- (2)予定されている主な審議項目：
  - 1)SC1(人間工学の指導原理)
    - ・NP 6385-1「人間工学 - 人間工学の原則 - 用語と基本概念」案の審議

- ・ISO 11075「精神的作業負荷に関する人間工学の原則 - 用語及び定義」の見直し
- ・ISO 11075-2「精神的作業負荷に関する人間工学の原則 - 設計の原則」の見直し
- ・NWI TR 10075「精神的作業負荷に関する人間工学の原則- ISO 10075-1～3 の解説」原案作成と審議
- 2)SC3(人体寸法と生体力学)
  - ・DRT 7250-2「技術的設計のための基本人体測定項目Part2(ISO加盟国の人体寸法統計値)」
  - ・AWI 7250-3「技術的設計のための基本人体測定項目Part3(ISO規格のための世界標準、地域標準人体寸法値)」
  - ・ISO/TR XXXX 「人間工学- マニュアルハンドリングと作業姿勢の国際規格の応用」の投票と原案作成
  - ・ISO/TR 11228-XXX 「人間工学-保健医療分野におけるマニュアルハンドリング」の投票と原案作成
- 3)SC4(人間とシステムのインタラクション)
  - ・日本提案の「ISO1503rev」と「表示器及び制御作動器の設計における人間工学要求事項」FDIS 審議 1 件
  - ・ISO 9241 シリーズ規格「電子ディスプレイの人間工学的要求と測定技法」審議 5 件
  - ・ISO 11064 シリーズ規格「制御室の人間工学関係規格」1 件
  - ・「触覚及び触知のインタラクション」関連規格2件
- 4)SC5(物理環境の人間工学)
  - ・ISO/FDIS15743「温熱環境の人間工学 - 寒冷作業環境：リスク評価と管理」の審議
  - ・AWI2450X シリーズ規格「高齢者、障害者を含む人々のためのガイドライン(視覚、聴覚)」の原案作成と審議 3 件
  - ・ISO/CD2880X シリーズ「物理環境の人間工学」審議
- 5)TC159/WG2(特別な配慮を必要とする人々のための人間工学)
  - ・ISO/TR22411「高齢者・障害者のニーズに配慮した規格策定のための人間工学データとガイドライン」第2版の原案作成と審議
- 6)JIS 原案作成
  - ・JISX8341-XX(ISO9241-171)等原案作成 2 件
- (3)主な国際会議予定
  - TC159/SC4 総会 2008 年 5 月 27-31 日 北海道千歳(Japan)
  - TC159/SC3 総会 2008 年 6 月 25-26 日 プラハ (Czech Republic)
  - TC159/SC5 総会 2008 年 11 月 6 日 コペンハーゲン (Denmark)
- (4)その他
  - 1)国際標準化戦略目標やそのアクションプラン改訂のための基礎情報を提供する。
  - 2)人間工学 ISO/JIS 規格便覧については引き続きアップデートを進める。

## 2-5. 表彰委員会

{ 委員長:阿久津 正大 }

### (1)委員会開催状況

数回程度の全体委員会の開催のほか、随時電子メールでの討議を行い、下記の活動を進める。

### (2)活動内容

- 1)表彰制度のあり方の検討等に資するために、他学会等の表彰制度に関わる情報を収集する。
- 2)表彰制度のあり方、各賞の選考規程等、表彰制度の検討・整備を進める。
- 3)日本人間工学会功労賞の受賞候補者の選考を行うとともに、表彰の準備を進める。
- 4)平成 20 年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞者に対する授与式を行う。また平成 21 年「大島正光賞」「研究奨励賞」の受賞候補者の選考を編集委員会に依頼し、選考結果を理事会に上申する。
- 5)第 49 回大会における「日本人間工学会優秀研究発表奨励賞」の受賞者を選考し、受賞者に対する表彰を行う。また第 50 回大会における同賞受賞者の選考に向けて準備を進める。
- 6)人間工学製品や人間工学実践活動に対する表彰制度の創設について広報委員会と連携して進める。
- 7)国際表彰に関して、国際協力委員会と連絡を密にして IEA からの推薦依頼について対応する。
- 8)表彰委員会 HP の開設を目指す。

## 2-6. 日本学術会議担当

{担当: 齊藤 進、青木 和夫}

### (1) 日本学術会議との連携の拡充

日本学術会議から発信される情報は臨時日本人間工学会のHPに掲載するとともに、日本学術会議主催の諸活動に積極的に参加する。

### (2) 日本学術会議主催の安全工学シンポジウムの準備・運営

1) 安全工学シンポジウム 2008(幹事学会: 土木学会、2008年7月10日、11日)の運営に協力する。

2) 安全工学シンポジウム 2009(幹事学会: 日本人間工学会)の開催に向けて実行委員会、企画運営委員会を組織し開催の準備を行う。

## [臨時委員会・担当]

### 2-7. 企業の人材育成プログラム開発委員会

{委員長: 酒井 一博}

企業における喫緊の人間工学ニーズに日本人間工学会としての確に答えることにより、人間工学の更なる実践的活用と社会への普及を図ることを目的とし、人材育成プログラムを開発する新たな委員会を設置することとした。活動の要点は以下の通りである。

#### (1) 企業人向け人間工学教育シラバスの作成

企業で人間工学を実践するために役立つ人間工学教育シラバスを、複数の産業を念頭に置いた上で提案する。

(2) 人間工学教育シラバスに沿った教材開発等、次年度以降に向けた成果の活用と展開の可能性を検討する。

(3) 本委員会の活動成果は、多くの分野で一般に活用されることを目指し、ホームページ等の媒体で広く公開する。

### 2-8. 人間工学技術戦略委員会

{委員長: 藤田 祐志、委員長代行: 富田 豊}

(1) 引き続き技術戦略ロードマップのローリングを行うとともに、他学会等による関連技術戦略ロードマップ作成に協力する。

(2) IEA等の関連する外部機関に対して活動成果をアピールする。

(3) 策定した技術戦略ロードマップの活用について、より具体的に検討を進める。

### 2-9. 人間工学研究ガイドライン検討委員会

{委員長: 横井 孝志}

#### (1) 作業内容

日本人間工学会としての人間工学研究ガイドラインを策定する。特に実験中の安全確保や事故防止、被験者の人権や個人情報保護の観点からガイドラインの具体的内容を検討する。

#### (2) 趣旨と動向

##### 1) 趣旨

本ガイドラインによって人間工学研究や人間工学に基づいた製品開発における質の向上や国際的な優位性の確保、人間工学実験の実施による研究成果等の円滑な公表等を支援することがねらい。

##### 2) 関連学会等の動向

・IEAではCode of Ethicsに代わり2006年7月にCode of Conduct for Ergonomistsを策定した。しかし、これらは人間工学研究者や人間工学研究における基本的な理念、原理原則を謳ったものであり、研究や実験を実施する者を対象とした具体的なガイドラインが必要である。

・生活支援工学会、ライフサポート学会等では福祉機器の海外への輸出を想定し、国内で福祉機器開発のための被験者実験を適正に実施する際に参照すべき「福祉機器開発のための実験ガイドライン(仮称)」の策定が進みつつある。他のヒトを扱う分野においても研究における倫理指針が策定されている。

・大学や研究機関でも人間工学実験委員会等を設置し、実験計画の倫理面からの審査を行い始めた。

#### (3) このガイドラインの特徴

人間工学研究やその中で行われる被験者実験計画の策定、実験実施において、倫理面、安全面、被験者保護等の観点から配慮すべき事項やその配慮方法をまとめたガイドライン。実験計画書、被験者への説明書、同意書等に盛り込むべき基本的事柄についても記載。

(4)本ガイドラインで想定している利用者、使われ方

- 1)人間工学分野での実験の計画や実施にあたって、特に倫理面の取り扱いを知りたいと考えている人間工学実験実施者(特に企業の若い実験実施者)のためのガイドライン
- 2)人間工学実験計画を審議、承認する人たちのガイドライン
- 3)認定人間工学専門家のための基礎知識としてのガイドライン

(5)策定のための体制

本委員会にワーキンググループを設置し、関連情報の調査、ガイドライン内容の審議等を行う。委員会メンバーについては理事会と調整をとりながら進める。

(6)その他

本委員会の活動期間は2年程度を予定している。

## 2-10. 支部・部会・大会担当

{担当:福田 康明、斎藤 真}

(1)支部について

地方会員数の増加対策を進めると共に、理事会に各支部長が参加できる仕組みや支部活動における研究活動成果の公表、並びに学会誌に支部報告(活動)を掲載する等の活性化方策を検討する。

(2)研究部会について

全部会を対象としたアンケート結果に基づき、現状の問題点(補助金、研究活動成果公表、正会員比率)等を検討し部会の活性化方策を促進する。

(3)大会について

大会開催校の負担を軽減する方策を検討すると共に、理事会、評議員会、総会開催の支援については総務担当と連携をしながら大会運営の効率化方策を検討する。

## 2-11. 法人化担当

{担当:大久保 堯夫}

新公益法人制度は、平成20年12月1日に施行され、一般社団法人の登記成立及び公益社団法人の認定の受理が開始される。この施行に先立って、設立に必要な準則、ガイドライン等が平成20年の春先に設定・公表される予定であり、これらに対応し一般社団法人設立登記及び公益社団法人認定を実現するため、以下の活動を実施する。

(1)既に公表されまた、今後公表される予定の政令、関連ガイドラインに準拠させるための諸要件の整備・確立等

- 1)法人の行う学会活動内容の整備・充実、
- 2)法人の組織活動体制のあり方 - 例えば評議員制度(代議員制度)のあり方・定数及び選任方法に代表されるガバナンス体制の検討・定款等諸規定の整備
- 3)財務基準等に基づいた再点検

(2)一般(公益)社団法人化のための設立登記申請書類の整備と設立手続きを実施



### 3. 支部活動

#### 3-1. 北海道支部

{ 支部長: 横山 真太郎 }

##### (1) 会議

1) 支部役員会 平成20年7月18日(予定) 北海道大学工学部

- ・平成19年度支部事業報告
- ・平成19年度決算報告並びに監査報告
- ・平成20年度予算案
- ・平成20年度支部事業計画案
- ・平成21年度支部大会および総会について

##### (2) 平成20年度支部大会および総会

大会長: 井上馨(北海道大学大学院保健科学院教授)

日 時: 平成20年11月8日

場 所: 北海道大学遠友学舎

##### 1) 支部大会

- ・特別講演: 斉藤進(日本人間工学会会長)
- ・シンポジウム
- ・一般講演

##### 2) 支部総会議題

- ・平成19年度支部事業報告
- ・平成19年度決算報告並びに監査報告
- ・平成20年度予算
- ・平成20年度支部事業計画
- ・平成21年度支部大会および総会について

#### 3-2. 東北支部

{ 支部長: 北村 正晴 }

##### (1) 支部主催研究交流会

年間2回の開催を計画している。

昨年度から見直した運営方針に則って、支部内の学術教育施設が立地している地域ごとの研究交流会を企画し実施する。第一回の研究交流会は八戸市において開催する計画である。

##### (2) 支部主催講演会

年間2回の開催を計画している。仙台地区での開催に加え、他地域での開催も検討する。

会員数が少ない支部での活性化向上方策として、関連他学会東北支部との連携を強化する。

##### (3) 支部役員会 年間4回程度を予定

研究交流会、講演会の企画・運営について討議する。また、それぞれの地域が面している人間工学に関連した研究トピックスの掘り起こしと認識共有、さらに連携強化を図る。

##### (4) その他

研究交流会記録、講演会記録は保存して希望者へ開示する方式を検討する。

それらの記録の中で希望の多いものについては、別途冊子化して配布する方式も試行する。

支部ホームページとメーリングリストと併用して、支部所属会員との双方向コミュニケーションを図る。

### 3-3. 関東支部

{ 支部長:堀江 良典 }

- (1)第 38 回関東支部大会
  - ・開催日:平成 20 年 11 月 29 日(土)~30 日(日)
  - ・会 場:千葉工業大学津田沼キャンパス
  - ・大会長:八田一利先生
- (2)支部委員会 年 2 回開催予定
- (3)基礎技法講習会、シンポジウム、卒業研究発表会、企業・研究機関交流、見学会などを開催予定
- (4)ニュースレターの発行

### 3-4. 東海支部

{ 支部長:横森 求 }

- (1)平成 20 年度日本人間工学会東海支部総会の開催  
平成 21 年 3 月中に開催予定
- (2)平成 20 年度日本人間工学会東海支部研究大会の開催
  - ・開催日:2008 年 10 月 18 日(土)
  - ・開催場所:アイシン精機株式会社本社
  - ・大会長:藤森文雄 アイシン精機(株)取締役副社長
  - ・実行委員長:上西園武良 アイシン精機(株)主席技師
- (3)講演会の開催
- (4)見学会等の開催
- (5)他学会との協賛
- (6)役員会の開催(2 ヶ月に 1 回程度の開催)

### 3-5. 関西支部

{ 支部長:岡田 明 }

- (1)企画・行事等
  - 1)見学会等 平成 20 年秋
  - 2)支部大会  
開催日:平成 20 年 12 月 6 日(土)  
会 場:京都工芸繊維大学  
大会長:森本一成(京都工芸繊維大学教授)
  - 3)春季講演会等 平成 21 年 3 月末(支部総会と併催)
  - 4)観察工学・サービス工学ワーキンググループ企画
  - 5)その他、企画立案中
- (2)会議・総会等
  - 1)第 1 回企画幹事会 平成 20 年 6 月
  - 2)第 1 回評議員会役員会合同会議 平成 20 年 12 月 6 日(土)(支部大会と併催)
  - 3)評議員・支部長選挙 平成 20 年 12 月~平成 21 年 1 月
  - 4)第 2 回企画幹事会 平成 21 年 1 月
  - 5)選挙管理委員会 平成 21 年 2 月
  - 6)第 2 回評議員会役員会合同会議 平成 21 年 3 月末(総会と併催)
  - 7)支部総会 平成 21 年 3 月末
  - 8)優秀発表賞授賞式(支部総会時)
  - 9)その他、随時メール会議等を予定

### 3-6. 中国・四国支部

{ 支部長:大塚 彰 }

#### (1)理事会開催(3 回程度)

第 1 回: 2008 年 4 月~5 月、場所: 県立広島大学保健福祉学部

第 2 回: 2008 年 11 月 22 日(土)、場所: 県立広島大学保健福祉学部

第 3 回: 2009 年 3 月下旬、場所: 県立広島大学保健福祉学部

#### (2)支部大会開催

第 41 回日本人間工学会中国・四国支部大会。

開催日: 2008 年 11 月 22 日(土)、場所: 県立広島大学保健福祉学部

大会長: 大塚 彰 先生(県立広島大学)

#### (3)支部講演会開催(2 回程度)

#### (4)支部表彰の実施

#### (5)その他

### 3-7. 九州支部

{ 支部長:長谷川 徹也 }

#### (1)活動計画

##### 1)第 29 回支部評議員会

・開催日:平成 20 年秋期開催予定

・会 場:未定

##### 2)第 29 回支部大会および会員総会

・開催日:平成 20 年秋期開催予定

・会 場:未定

・大会長: 梶原 裕 (九州大学)

##### 3)「九州人間工学第 29 号」の発送

#### (2)その他

## 4. 研究部会活動

### 4-1. 口と健康部会

{ 部会長:山本 宏治 }

<H16.4.1~5年以内>

#### (1)平成 20 年度研究部会テーマ

「医療安全と人間工学」

#### (2)活動内容

##### 1)第 24 回 研究発表大会

日 時: 平成 20 年 8 月 30 日(土)

会 場: 九州歯科大学 本館 講義室

主 催: 寺下 正道(九州歯科大学)

##### 2)第 24 回 研究発表大会 講演論文集 発行

##### 3)幹事会開催

6 月・9 月・12 月

##### 4)部会ホームページの更新

口と健康部会では、今年度も昨年度と同様、歯科医療、歯科医学および歯学教育にまつわる諸問題に対して人間工学的な立場からの解決を目指して研究に取り組み、歯科医学界に人間工学的手法の重要性を啓蒙するための活動を行っていく。

近年の歯学卒前教育では、従来の医学的知識重点の教育にかわって、実際の治療技術や医療面接等の対話技術などの臨床能力養成の重要性が認識されるようになってきた。臨床実習直前に行われる共用試験における「客観的臨床能力試験」や、歯科医師国家試験への実技試験の実施などが議論されている中、臨床技能の効果的な教育法および評価法はいまだ確立されているとはいえない。本部会では、人間工学的立場から、歯科医療技術教育のための指針、効果の高い教授法、妥当性の高い評価法について提言していきたい。

一方、超高齢社会を目前に控えた本国での車椅子使用者、また高齢者に限らずともスポーツ事故あるいは交通事故等により一時的に車椅子使用を余儀なくされた患者の歯科治療の需要は当然の事ながら急増している現状がある。術者と患者双方が安全かつ身体に負担の掛からない、あるいは負担を軽減するための車椅子対応歯科ユニットが求められており、歯科医療空間のバリアフリー化を含め、ニーズ増加に対応すべく車椅子の規格化についても提言していきたい。

さらに、今年度の研究発表大会のテーマにあるように「医療安全と人間工学」について討論する予定である。人間工学の追求はすなわち医療安全の追求に繋がるとの命題のもと、日々複雑化する医療システム・医療機器・医療環境に対処するには人間工学的見地からの開発が必須であり、日本歯科人間工学会から各界に提言して行きたい。

#### 4-2. 情報社会人間工学研究部会

{ 部会長: 平沢 尚毅 }

<H16.4.1～5年以内>

##### (1)平成20年度研究部会テーマ

「情報通信技術による社会的および組織的変革に対する人間工学的アプローチ」

##### (2)活動内容(手段・方法)

###### 1)有志メンバーによる中期研究戦略構想のための会議

ロードマップとの関連を含めて、戦略構想を提言する。そのためのワークショップを開催する。次年度のシンポジウムのテーマとする。

###### 2)人間工学とシステム開発に関するワークショップ

人間中心設計に基づいたシステム開発を実装するための組織変革に関するワークショップを開催する予定である。

###### 3)シンポジウムの開催

「市民の視点から見た行政システムの開発」をテーマにシンポジウムを開催する予定である。

###### 4)出版計画

これまでの部会の成果を基に出版計画を開始する。3年後の出版を目指す。

###### 5)幹事会の開催

年度計画、研究会部会の継続に関する審議を行うために、年に2度、幹事会を開催する予定である。

##### (3)期待される成果

ユビキタス社会の到来を迎えて、人間にとって生活を豊かにするシステム開発方法論の構築を進めていくとともに、現状の課題、特に行政などの社会システムの課題と改善提案につなげてゆく。これらの新しい指針を、特集号などを通して広く学会員に広げていく。

#### 4-3. 聴覚コミュニケーション部会

{ 部会長:江袋 林蔵 }

<H16.4.1~5年以内>

- (1)前年度に引き続き、Auditory Ergonomics 分野における内外研究者の聴覚コミュニケーション研究情報の交流を図り活動を推進するとともに、昨年度の問題点の改善を図る。
- (2)前年度と同様の活動項目であるが、3項・4項に示すような内容の改善を図る。
  - 1)研究会の開催
  - 2)幹事会の開催
  - 3)ニューズレターの発行
  - 4)ホームページの更新
- (3)方 法  
平成 19 年度展望を踏まえ前年度に準じて活動する。特に、聴覚コミュニケーション研究会を関西地区で開催する。また、音響学会聴覚研究会が九州大学で開催される場合は共催を予定する。新たな研究分野の開発を期して、学会員以外の研究者、実務家の研究会への参加を呼びかける。
- (4)期待される成果  
関西地区・九州地区での研究者情報交流の促進、音響学会との交点と JES 独自性の新たな研究分野の開発を期待する。

#### 4-4. 医療安全研究部会

{ 部会長:土屋 文人 }

<H19.4.1~5年以内>

- (1)活動テーマ  
医療事故が社会問題化して来年で 10 年を迎える。この間様々な批判はあるものの行政、医療機関、関連業界は医療安全確保のために努力を重ねてきた。当初は全く見向きもされなかった人間工学的研究が今や医療の分野で大きく認識されるようになったことはこの間の大きな成果といえる。昨年4月には医療安全の仕組みについて大きく踏み込んだ改正医療法が全ての医療機関を対象として施行された。これに伴い、医療安全は第2段階に入ったといえる。医療安全研究部会の活動も存続期間延長が認められたことから、第2期初年度は諸事情で十分な活動ができなかったことを反省し、医薬品や医療機器のヒューマンインターフェース部分等の人間工学的研究方法の確立と普及を目指すと共に、総合的な医療安全を確保するための人間工学的研究の促進を図ることとする。
- (2)手段・方法
  - 1)医薬品関係  
横幹連合の医薬品インターフェース調査研究会の中心的役割を果たすべく、医療機関(特に医薬品安全管理責任者)や製薬企業を対象とした人間工学的研究の普及等を目指した講習会等の開催を行う。
  - 2)医療機器関係  
昨年度実施できなかった、医療機器等に関する人間工学研究の支援施設の見学会を計画するとともに、医療機器関連企業を対象とした人間工学的研究のあり方等に関する研修会の開催を計画している。また可能であれば医療機関の医療機器安全管理責任者を対象とした講習会も開催したい。
- (3)期待される成果  
昨年施行された改正医療法により医療安全に関する法的な面での整備は一段落したと思われるが、今後はその実効性が問われることになる。従って今後人間工学的視点からの検討が極めて重要になることから、上記各分野における講習会の開催や研究の促進により、医療機関、企業にとって人間工学がより溶け込むこととなると考える。

#### 4-5. 衣服人間工学部会

{ 部会長: 間壁 治子 }

<H19.4.1~5年以内>

##### (1) 研究テーマ

「衣生活の近い未来を考える」

昨年度に引き続き人間と衣服との関係の評価方法を柱に、人体計測はもとより、衣服の設計条件からその機能性や安全性などの評価方法に至るまで諸問題について研究を進めていく予定である。また若手人材の育成も念頭に置き、勉強会や見学会なども開催していく予定である。

##### (2) 例会の開催 年2~3回程度開催予定。

###### 1) 第1回役員会・例会

開催日: 平成20年5月24日(土)(予定)

場所: 共立女子大学

内容: ファンションオンデマンドの現状について企業に参加してもらい、解説と体験をする。

###### 2) 第49回大会にてシンポジウムを開催

テーマ: 衣生活の過去・現在・未来

発表者: 磯崎明美(文化女子大学)

別府美雪(共立女子大学(非))

土肥麻佐子(産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター)

##### (3) 期待される成果

引き続き、大学・学校関係者だけでなく、アパレル産業など幅広く部会への参加を呼びかける。衣服人間工学の現状をとらえ、参加者とともに未来に向けての提言へと導きたい。

また、先に提示された人間工学技術戦略マップにもとづき、当部会の役割を明確にし、研究活動のガイドラインについて役員を中心に検討していく。

#### 4-6. 人間融合ロボット分野アカデミックロードマップ研究部会

{ 部会長: 富田 豊 }

<H19.4.1~5年以内>

本研究部会は、2006年度に引き続き、2007年度も経済産業省より、ロボット分野に関するアカデミックロードマップ(ARM)の作成に関する研究を行う委託を受けた。2008年度に関しては未定であるが、人間工学技術戦略ロードマップ委員会と協力してロードマップのローリングを行う。

##### (1) ロードマップの使用法を一般の人にわかりやすくし、普及させる手段を講じる。

##### (2) 各研究部会に依頼して、研究部会としてのロードマップを書いてもらう。

##### (3) 編集委員会と相談して「人間工学」各号の1頁を研究部会ロードマップの頁としてもらう。現在12部会あるので、2年間で一巡することになる。

#### 4-7. 触覚インタラクション研究部会

{ 部会長: 山本 栄 }

<H19.4.1~5年以内>

今年度は部会の広報および研究活動に焦点を当てる。従って以下の3点を重点目標とし、実施する。

##### (1) 研究活動の活性化

第2回ワークショップの開催

研究報告会という位置づけでヒューマンインタフェース学会と共催という形式で、H20年7月下旬に開催予定。

詳細は調整中。

##### (2) 部会広報活動

人間工学会第49回大会(平成20年6月15日)にて、部会主催のシンポジウムを実施。

パネルディスカッション形式にて実施。発表予定者は、5名。  
H20年度関東支部大会でのシンポジウムを予定詳細は検討中。

(3) ニュースレターの配信

この秋を目指してニュースレター（電子版）を発行。内容は関連研究会、勉強会等の告知、および触覚研究者によるコラム等を随時掲載予定。主な目的は、「触覚インタラクション」の研究分野が広いことを周知することにある。

#### 4-8. 航空人間工学部会

{ 部会長: 垣本 由紀子 }

<H20.4.1~5年以内>

(1) テーマ

航空人間工学分野における諸問題の検証および最新の知見の啓蒙を図る

(2) 手段・方法

1) 例会等の開催

年間1回の例会(上期に実施)、および下期は関連施設の見学会等の実施を基本とし、会員ならびに関係者間での情報の交換および知識の普及を図る。

2) インターネットホームページの運営

関係者から常時アクセスが可能である利点を生かし、当会の活動内容を広く周知するとともに、活動案内の掲示や会員の参加申し込みを活用する。

3) 委員会・幹事会の開催

適宜委員会・幹事会を開催し、部会活動を円滑に行うと共に、会員の意見を部会活動に反映させるよう努める。

4) 例会資料の電子ファイル化の継続

昨年同様、本年度開催される例会資料をCD-ROM化し、財団法人日本航空協会が運営する航空図書館に寄贈し、一般の供覧に提供する。

講演者の承諾が得られたものについて実施。

(5) 期待される成果

航空安全の推進においては、官・民・学および諸外国も含めた多くの組織が関わっているため、これら関係者が交流し、情報を交換する場を当部会が提供することで航空人間工学の知見獲得が可能となるだけでなく、航空の安全の推進へ大きく貢献できるものとする。

#### 4-9. アーゴデザイン部会

{ 部会長: 上田 義弘 }

<H20.4.1~5年以内>

(1) 活動テーマ

「ユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論を求めて」

1) 具体的な活動

当部会は平成18年度よりユビキタス時代のユニバーサルデザイン方法論について研究を進めている。昨年度の全国大会、関東・関西支部大会のシンポジウムでは活動成果として、「構造化シナリオ手法」のフレームと目的・目標を提示した。さらに、3月の合宿研究会ではこの手法を活用したワークショップを実施。今年度はそれらの成果を受け具体的な活用事例について議論を深めたい。産業界からの参加が多い当部会の特性を生かし、部会活動を活発化させ例会等を通じて事例の収集と発表を促進する。そして、「構造化シナリオ手法」を、来るユビキタス時代の開発現場で実用に供するビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法として確立していく予定である。

2) ワーキンググループの活動

今期はユビキタス方法論ワーキンググループとロードマップワーキンググループの活動をより具体化する。各WG

活動は部会員や外部協力者との連携を深め、事例による検証を中心とした研究活動を行う。これによりサービス企画や商品開発に携わるデザイナーや研究者がユビキタス技術を活用するための実践シールや情報データの確立を目指す。同時にこの新たな方法論を広めるための出版準備も進める。

### 3) 独自ドメイン[ergo-design.org]のWebサイトによる広報活動

今期は独自ドメインで運営しているWebサイトにおいて、会員相互の情報交換と部会活動の広報手段としての機能を充実させるため、インフラ整備とHPの改善を実施する予定である。同時に、部会員との連絡手段としてのメーリングリストネットワークの整備・活用も進める。

### 4) 期待される成果

ユビキタス社会における新たなサービスや商品を企画・開発のために、構造化シナリオ手法をはじめ、様々なデザインや人間工学の話題を検討・議論するための場を提供することができる。

また、当部会が開発している構造化シナリオ手法は、ユビキタス環境で様々な人に公平にサービスを提供するために、個人個人の特性に応じたアクティブティやインタラクションを描くためのユニバーサルデザイン方法論であり、部会員、学会員だけでなく、多くの開発者やデザイナーの実用的な方法論として各界で活用されると考える。

### (2) 活動予定

- 4月 幹事会
- 5月 全国大会シンポジウム準備、デザイン方法論WGセッション
- 6月 第49回全国大会 テーマ「ビジョン提案型ユニバーサルデザイン手法」
- 6月 幹事会、デザイン方法論WGセッション
- 8月 幹事会
- 9月 コンセプト事例発表会
- 10月 見学会、幹事会、デザイン方法論WGセッション
- 11月 関東支部大会シンポジウム開催  
関西支部大会シンポジウム開催
- 12月 幹事会
- 1月 デザイン方法論WGセッション
- 2月 幹事会、デザイン方法論WGセッション
- 3月 合宿研究会 / 総会 / 幹事会

## 4-10. 感性情報処理・官能評価部会

{ 部会長: 市原 茂 }

<H20.4.1 ~ 5年以内>

### (1) 目的

当部会は、感性情報処理と官能評価に関わる諸問題を基礎から応用まで幅広く、様々な角度から討論し、研究者同士が互いに刺激し合って、優れた感性情報処理、官能評価研究が輩出されるような場を提供すること。さらに、この領域の優秀な若手研究者を育成することを目的としている。

### (2) 活動テーマ

感性の主体である人間の感覚・知覚・感情・認知のメカニズムに関する先端的な研究を紹介するとともに、感性研究や官能評価の手法についても幅広く検討したい。研究領域としては、高齢者の知覚・認知・感性の問題や共感覚などに代表される感覚間相互作用の問題などを取り上げ、ブートストラップ法などの新しい統計手法の研究をしていきたい。そのために、関連する諸学会・研究会との連携も深め、研究会や講演会を積極的に開催していきたいと考えている。また、若手研究者の研究意欲を喚起し、具体的なアウトプットを生み出してゆく支援となる場としての機能を充実させるため、例会を開催し、修士論文や卒業論文を作成中の学生など発表を積極的に取り上げたいと考えている。



### (3)活動内容

若手研究者への啓発や手法の会得を目的とした例会、さらには、例年行っている外部講師を招聘した講演会や新しい手法を勉強する研究会もあわせ、年間6回程度開催する予定である。関連する諸学会・研究会との共同企画も増やしていきたい。また、例年同様、システム大会でも当部会を中心としたセッションを設ける予定である。

## 4-11. 看護人間工学部会

{ 部会長:西田 直子 }

<H20.4.1 ~ 5年以内>

### (1)テーマ

看護人間工学の教育方略に関する研究ならびに人間工学に基づいた看護人間工学の独自性を明確に打ち出し研究成果を公表する。

### (2)手段・方法

#### 1)第16回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会開催

2008年8月30日(土)に岩手看護短期大学のマルチメディアセンターにおいて、岩手看護短期大学の平野三千代教授が主催し、第16回看護人間工学部会総会・公開研究会・講演会を計画している。特別講演では、岩手大学福祉システム工学科教授、大川井宏明先生に福祉の中での研究についてお話しいただき、エルゴシーティング株式会社野呂影勇人間工学研究所所長、野呂影勇先生に「研究手法について(仮題)」と講演していただく予定である。

#### 2)第17回システム連合大会への参加

2009年3月13日(金)~3月15日(日)に東海大学の有賀正浩教授が主催し、第17回システム連合大会が開催される予定であり、看護人間工学部会からも幹事会に参加し、大会にも10名は参加する予定である。

#### 3)日本人間工学会誌に看護人間工学に関する総説を投稿する。

#### 4)日本人間工学会第49回大会に参加する。

### (3)期待される成果

#### 1)第16回看護人間工学部会公開研究会で公開研究会では、演題10題を目標に部会員に呼びかける。

#### 2)第50回日本人間工学会への発表を部会員に呼びかけ、参加人数を増やす。

#### 3)第17回システム連合大会では演題5題を発表できるように呼びかける。

#### 4)看護人間工学研究誌第9巻を発行(平成21年3月)し、部会員に送付する。

## 4-12. システム大会

{ 世話人:富田 豊 }

### (1)本会の目的

感性情報処理・官能評価部会、看護人間工学部会、聴覚コミュニケーション部会、旧ヒトをはかる部会、旧座研究部会、旧視覚エルゴノミクス研究部会が中心となり、システム連合大会と称して16年前に発足した。2007年度は市原茂(首都大学東京)が世話人となり、3月14日、15日、16日に八王子にある大学セミナーハウスにおいて合宿形式で開催した。2008年度も3月中旬に大会を開く予定である。

本大会では、他の学会と異なり、完成した研究ではなく、発展途上のテーマ、困難にあたっており他の分野の方々の意見を聞きたいようなテーマを中心に発表している。また、泊り込みの合宿形式なので、3日間寝食を共にすることで、研究者間の一体感が生まれ、研究の裏話などを聞くことができる。1つのセッションを学生セッションと称して割り当て、卒業論文の発表を行っている。研究が完成後、「人間工学」や「人とシステム」に投稿を勧めている。

### (2)活動の内容

平成19年度は下記日程で活動し、平成20年度も第17回システム大会を開催するよう同様のスケジュールで活動を計画している。

#### 1)9月15日：第1回システム大会幹事会

#### 2)12月15日：第2回システム大会幹事会、WEBや「人間工学」にて会員に周知

- 3)2月29日：第4回システム大会幹事会、プログラム、座長などの確定
- 4)3月14 - 16日：第16回システム大会

## 5. 認定人間工学専門家部会

{ 部会長:青木 和夫 }

### (1)資格認定試験を実施する

資格認定試験(A方式試験)を年1回、筆記試験免除条項の適用(B方式試験)を年2回実施する。準専門家試験を年4回実施する。

### (2)定期総会、講演会、幹事会を開催する

講演会 日時：2008年4月25日(金)14:00～15:50

会場：日本大学理工学部隅田台1号館2階122会議室

演者：八木佳子(株式会社イトーキ) 演題：「イトーキの椅子作りと人間工学」

北島洋樹(労働科学研究所) 演題：「人間工学実験に関するいくつかの話題」

総会 日時：2008年4月25日(金)16:00～17:00

会場：日本大学理工学部隅田台1号館2階122会議室

幹事会(数回開催予定)

### (3)ガイドブックを改訂する

問題形式の統一や、ガイドブックの電子化をおこなう。

### (4)再認定をさらに促進する

(5)部会ホームページ、部会報、学会大会等を活用して部会員の交流と本制度の対外アピールに努める。

(6)人間工学グッドプラクティスデータベース作成に積極的に協力する。